

# 地域プロジェクトマネージャー事例集



MIC

くらしの中に

総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

令和6年3月

総務省 地域力創造グループ

地域自立応援課

# 地域プロジェクトマネージャーについて

## 制度概要

- ・専門的な知識やこれまでの経験で培った人脈などを活用し、関係者間を橋渡ししながら、プロジェクトをマネジメントするブリッジ人材を、重要プロジェクトの責任者として市町村が任用する制度で、令和3年度より開始している。
- ・地域おこし協力隊と同じく、任用にあたっては、都市地域から過疎地域等の条件不利地域への住民票の異動が必要。ただし、現地在住かつ過去に現地で地域おこし協力隊や地域活性化起業人等として活動した経験がある者が任用される場合や、現地在住かつ過去に他の市町村で地域プロジェクトマネージャーとして活動した経験がある者が任用される場合は、住民票の異動は不要。
- ・総務省は、地域プロジェクトマネージャーの報償費等を対象に、1市町村あたり2名まで、1名あたり650万円を上限に特別交付税措置を講じている。

## 人数と活用団体の推移

令和3年度	30名(30市町村)
令和4年度	70名(70市町村)
令和5年度	91名(88市町村)

## 年齢層（令和5年度）

年代	人数	割合	年代	人数	割合
20代	6名	6.6%	50代	20名	22.0%
30代	25名	27.5%	60代	20名	22.0%
40代	19名	20.9%	非公開	1名	1.1%

## 特徴

- ・地域おこし協力隊経験者(31名)や地域活性化起業人経験者(3名)から地域プロジェクトマネージャーになる方が多く、都市部からの移住等により関係を持った地域において、自らのスキルや専門性を活かしながら、引き続き活躍をしている例が目立つ。
- ・20~30代の割合が約7割の地域おこし協力隊と比べ、地域プロジェクトマネージャーは40代以上が約7割と年齢層が高い。

## 活動分野（令和5年度）

観光・情報発信	25名	デジタル	6名
地域コミュニティ活動	13名	環境保全・自然保護	4名
教育・文化	11名	スポーツ	4名
移住・定住促進	9名	漁業・水産業	3名
農業・林業	8名	不動産利活用	2名
商品開発・販売	6名	合計	91名

ノウハウ

- 観光まちづくりに関する長期的な戦略づくりと短期的な企画立案
- まちづくり組織の自走化に向けたスキーム構築力と多岐に渡る人脈
- 機運情勢と担い手育成のための持続的なコミュニティ運営



プロジェクト名	江別市観光振興計画推進プロジェクト
年齢	39歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.7.1～
出身地	大阪府吹田市
転出元	北海道札幌市
前職	都市開発コンサルタント

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

まちづくり活動を持続的に行うためのNPO法人の設立やゲストハウス経営を通して、様々な人との関係性を築きながらヒューマンスケールでのまちづくりを実践してきました。

その中で培ったまちづくりに必要な知見やステークホルダー間をまとめあげる調整能力を活かすことで、江別という、いわゆる温泉街のような観光地ではない地域での新しい観光の形を、まちづくりの観点から推進することができるのではないかと考えました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

観光協会主催の「えべつマルシェ」を企画立案し、長期的な事業創造プロセスの一貫としてブランド化した上で、定期開催している。昨年度の初開催から年に2回のペースで開催し、来場者は毎回5,000人を超える大規模な季節行事へと成長した。



新規観光事業を発掘することを目的とした「新事業創造会議」を企画・運営している。江別を代表する集客施設の経営者を招き、議論を進行しながら議論内容をその場でイラスト化する「ライブドローイング」という手法を用いて、オール江別での観光振興ビジョンとアクションを整理した。



江別が誇るオリンピック出場選手右代啓祐氏を大麻銀座商店街に招き、子どもの運動教室「EBETSU SPORTS LESSON」を初開催。国内のトップアスリートが故郷の地方創生に本気で取り組むモデルを構築することが目的。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kankoshinko@city.ebetsu.lg.jp

職場電話番号：011-381-1091

ノウハウ

- 三笠高校生卒業生である
- 飲食業で務めていた
- 起業経験がある



プロジェクト名	食を通じた健康づくりと地域活性化
年齢	27歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	北海道旭川市
転出元	北海道三笠市
活動経験	三笠市地域おこし協力隊 (H31.8～R3.7)
前職	地域おこし協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

食のまちづくりを推進する上で、欠かすことのできない三笠高校卒業生であり、これまでに卒業した三笠高校生や現役の三笠高校生を繋ぐことができると考え、地域プロジェクトマネージャーになりました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<札幌三笠会との連携>

札幌三笠会の総会開催時の三笠高校卒業生への開催案内や総会出席等の取りまとめのほか、総会当日の三笠高校卒業生の現況発表などの企画を実施。



<東京三笠会との連携>

東京三笠会の会報発行にあたり、三笠高校卒業生への取材依頼などを行い、取材協力や執筆協力をいただいたほか、総会開催時における三笠高校卒業生への開催案内や総会出席等の取りまとめを行った。



<三笠市と三笠高校生・卒業生の連携体制システムの構築>

三笠市と三笠高校生・卒業生の相互コミュニケーションの方法として、LINE (ライン) を活用したシステムの構築に向けて取組を進めている。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@city.mikasa.hokkaido.jp

職場電話番号：01267-2-3182 (北海道三笠市役所企画調整課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

[https://www.instagram.com/2\\_beans\\_coffee/](https://www.instagram.com/2_beans_coffee/)





ノウハウ

- 町長と担当部署の連携・橋渡し
- 地域新電力会社立ち上げ
- 民間企業等との協議・調整
- 地域新電力構想の現場責任者

○ 活動内容・取組成果

<新電力会社設立に向けた取組>

再エネを活用した地域新電力会社を立上げるため、民間企業と協議を行い、方向性を確立させ会社設立を目指している。

また、公共施設の自家消費や鶉ダムを活用した小水力発電を通じた、冬期間のハウス等への熱源供給を行うことによる、農業の所得向上の実現を目指し、民間企業との調整や体制整備を図っている。



<取組の成果>

町と北海道ガス株式会社が締結した『連携と協力に関する包括協定』に基づき、地域新電力会社を令和5年8月に設立した。また、ゼロカーボンシティーを目指し、脱炭素先行地域に申請した。

さらに現在は、民間企業による再エネ発電事業を誘致すべく対応を進めている。将来的に発電量の一部を地産地消として活用すべく協議を進めている。



プロジェクト名	厚沢部町地域新電力構想プロジェクト
年齢	63歳（R5.4.1時点）
活動時期	R3.4～
出身地	山形県鶴岡市
転出元	千葉県松戸市
前職	技術営業 (東芝プラントシステム株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

北海道電力をはじめとする国内11電力会社及び国内の製紙会社、鉄鋼会社の火力発電所、並びに民間企業の太陽光発電所、バイオマス発電所などにおける、発電設備全般の計画から建設、運用開始までに携わってきたこれまでの経験を活かしたいと思ったためです。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：honma@town.assabu.lg.jp

職場電話番号：0139-64-3312

(厚沢部町役場政策推進課)

ノウハウ

- 約25年の記者、編集者経験があり「食と旅のライター」として活動
- ワインエキスパートなどの資格を有し、ワインや食の分野を中心に、雑誌やwebなどの取材、執筆、編集業務に精通



プロジェクト名	ワインで結ぶ、余市のポテンシャル
年齢	47歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	埼玉県さいたま市
転出元	東京都杉並区
活動経験	余市町地域おこし協力隊 (R3.4～R5.3)
前職	記者、編集者

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

R3.4より2年間、地域おこし協力隊として活動する中で、余市町は、生育環境や町内醸造されたワインに注目すると、国内のみならず、世界のワイン業界の中でも高いポテンシャルを持つエリアであることを認識しました。

一方で、こういった盛り上がりを見せるワイン産業と深い関係にある観光業、飲食業、農業、漁業等の町内関連事業者間の連携が不足しているのではないかと思います。これらを有機的に横軸で通すことができる体制を構築する人材の必要性を感じたため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<PRイベント支援>

都内で実施したワインと町の特産品を味わう「ワイン×食イベント」の企画提案からメディア発信まで、実施主体の観光協会と連携を図り、一連の調整業務を担当。自ら誘致したミシュランスターシェフの活用により、大手出版社やインフルエンサーをはじめとした約50名への周知と20以上の媒体での掲載を獲得。



<シティプロモーション事業>

- ①R5.4に札幌市で開催された「G7気候・エネルギー環境大臣会合」の歓迎レセプションにて、余市町産ワイン5種が採用されたプレスリリースの作成を担当。
- ②ミシュラン星付きレストランに在籍したシェフソムリエを町内へ招聘。その後、都内ラグジュアリーホテルにおける期間限定プロジェクト「テロワール・日本」の第一弾として余市町が採用。



<町内事業者のイベントを支援>

余市町で開催された下記のワイン関連イベントにおいて、町役場と実行委のブリッジ人材としての役割と果たすと共に、それぞれの事業において広報・PRや運営を補助。  
 「くるくるナイト」(R5.4)  
 「余市牡蠣とワインまつり」(R5.6)  
 「ラフェト デ ヴィ ニュロン ア ヨイチ」(R5.9)



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：tomohomma1117@gmail.com

職場電話番号：0135-21-2117 (余市町役場政策推進課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100065513536530>

[https://www.instagram.com/yoichicho\\_love](https://www.instagram.com/yoichicho_love)



ノウハウ

- 会社を1社起業、店を7店舗開業した経験
- 複数のジャンルの料理店を経験
- SNSの収益化

プロジェクト名	かみすながわ魅力発掘プロジェクト
年齢	30歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.8～
出身地	北海道札幌市
転出元	北海道芽室町
活動経験	上砂川町地域おこし協力隊 (R2.6～R5.7)
前職	営業職 (ソフトバンク株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

起業を行ってきた自らの経験を活かして、地域おこし協力隊に対し、起業に対する提案やアドバイスなどの起業支援を行うことにより、協力隊の活動を支援し、上砂川町への若者への定着を促進させたいと思いました。

また、これまでにできた人との関係を活かして、町や住民、関係企業等への橋渡し役となって地域活性化を図っていきたいと思ったため、地域プロジェクトマネージャーになりました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<地域コミュニティ形成事業>

町の駅ふらっとで行っているマルシェでは、来客者数が年々減少してきたことから、その改善を図るため、新メニューを2品追加。結果として前月比で、8月は10名増、9月は20名増と改善効果が見られた。



<地域おこし協力隊支援事業>

今年4月から着任した地域おこし協力隊員に対して、起業に向けたアドバイスを行い、おにぎりの商品化を実施。また、数度に渡って販売を行うなど、起業に対するノウハウを伝えることができた。



<関係人口創出事業>

現在、小学生がワークショップとしてこどもレモネードを販売する事業を支援しており、好評を得ている。他の子ども達からも希望があったことから、年内に新しいワークショップの企画を立案中。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kattun\_takuya@gmail.com

職場電話番号：070-2001-4736

(気まぐれパン工房)



ノウハウ

- 関係性構築・チームビルディング等のファシリテーション
- 食文化継承・食育事業等のプロデュース
- 社会／地域課題×アートマネジメント

プロジェクト名	関係人口の創出・拡大からひと・しごとを呼び込む循環づくり事業
年齢	44歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	北海道札幌市
転出元	京都府京都市
前職	ファシリテーター (NPO法人場とつながりラボ home's vi 一般社団法人日本スローフード協会)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・美瑛町にルーツがあり（曾祖父母世代が美瑛町の開拓者で、幼少の頃から頻りに訪れていた）、「心のふるさとでもある美瑛町を次世代につないでいきたい」と長年想い続けていました。
- ・町のテレワーク事業への参加(R2)をきっかけに、京都のNPOと共にワーケーション事業に取り組んでいました。
- ・美瑛町の関係人口創出にあたって、これまでの人脈やキャリアを活かして貢献ができるのではないかと考え応募に至りました。

○ 活動内容・取組成果

- <美瑛ワーケーションビレッジ>
- ・町外者と町民との信頼関係の構築・課題解決に取り組む人材とネットワーク拡大を目指し、橋渡し役を務める。
  - ・遊休施設の利活用、地域資源の掘り起こしのためのワークショップ等を企画
  - ・参加企業／事業者数（前年度からの継続・事業展開含む）：のべ30社



<テレワーク事業>

- ・テレワーク／企業研修等の誘致活動（企業・団体・大学への営業等）
- ・テレワーク希望者へのヒアリング
- ・テレワーク施設利用者へのヒアリング
- ・これまでつながりが薄かった関西圏への営業活動「美瑛つながりラボ」実施  
※京都・神戸 70名参加



<地域おこし協力隊における中間支援>

- ・地域おこし協力隊メンバーの活動に対する課題抽出のための、個別ヒアリング
- ・これまで協力隊同士の横のつながりがなかったため、関係性構築と情報交換のための定例ミーティングを企画・実施
- ・活動の“見える化”（情報発信等）を検討



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：soumu@town.biei.Hokkaido.jp  
電話番号：0166-92-1111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/seiko.okubo.5>  
<https://smout.jp/plans/8216>



ノウハウ

- コピー、デザインの方向を決めるクリエイティブ・ディレクション
- 人と人・人と企業・地域と地域・地域と都市部などをつなぐコミュニティ形成



プロジェクト名	ブランディング等地域活性化事業
年齢	55歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4.1~
出身地	神奈川県横浜市
転出元	北海道斜里町
前職	クリエイティブディレクター/ コピーライター (株)JTBコミュニケーションデザイン)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

【委託先から主体者へ】平成28年度から6年間、斜里町「知床観光ブランディング強化事業」をクリエイティブ・ディレクターとして推進するも、あくまで委託受注者としての立場Kらでした。町に移住し・役場に入り、主体者の一部となって推進することに価値を感じたため応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<知床ブランディング>

2016年からスタートした知床観光ブランディングを、漁業・農業・環境・テレワーク等に横展開して、地域ブランディングにまとめ上げる。2022年4月からは、役場の中に入ることで地方自治体と民間企業をブリッジする、より広い意味での地域ブランディングを進行中。



<ゴールドウイン社との連携>

2021年10月に地域活性化に関する包括連携協定を結んだ株式会社ゴールドウインと連携。THE NORTH FACEアスリートのサミットや企業合宿を通して、知床と親和性の高い人や企業とのブリッジをすることにより、関係人口増加を図っている。



<首都圏・札幌人材へのPRイベント>

コミュニティ型ワークスペースWeWorkに所属することで、知床及び知床サステイナブルに興味のある人や企業をブリッジするイベントを開催。実際にテレワーク/ワーケーションで訪れる人を増加させている。また、同じ方法論で札幌でも展開中。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sh.kankou@town.shari.hokkaido.jp  
(商工観光課観光係)

職場電話番号：0152-26-8375

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/junhatsuumi/>  
<https://note.com/junhatsuumi/>





ノウハウ

- 幅広い行政担当者と  
ホットラインを持つ
- 地域おこし協力隊や  
地域プレイヤーとの  
win-win関係
- 事業や活動はすべて  
何かの布石（伏線）  
にする

プロジェクト名	子どもにやさしいまちづくりPJ
年齢	49歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.4～
出身地	北海道安平町（旧追分町）
転出元	北海道恵庭市
前職	幼児教育（学校法人リズム学園）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

平成30年北海道胆振東部地震の際に災害ボランティアセンターで活動していく中で、町の復興には、地域がつながり地域で子どもを育てるまちづくりが必要だと感じました。そのタイミングで、町がCFCIの考えをもとにプロジェクトをつくることを知り、今までの自分の経験や知識が町の復興に寄与できるのであればと思い、応募しました。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<教育フォーラムの開催>

安平町の教育の取組を道内外に発信するため、地域で活動するまちづくり会社と連携してフォーラムを開催。幼児教育、学校教育、社会教育をつなげ、全国から300名以上の参加者が集った。



<早来学園ヤギ飼育>

動物を飼育したいという要望を受け、地域で動物を飼育している住民と地域の子ども関係NPOをつなげ、PTAと協働でヤギを飼育。地域の子どもや大人がヤギを見に学校に足を運びきっかけとなる。



<ミニ地域食堂>

創業実践の地域おこし協力隊と高齢者をつなげ、ミニ地域食堂を平日日中の学校で企画（11月実施）。子ども達が福祉や起業を目にする機会となり、まちに関心を向ける一助となる。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：gk-kyouiku@town.abira.lg.jp

職場電話番号：0145-29-7036

（北海道安平町教育委員会学校教育グループ）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

広報あびら：https://www.town.abira.lg.jp/kurashi/koho/koho2023



ノウハウ

- 前職まで（交通事業者・シンクタンクの企画・計画部門）の経験を踏まえた、企画立案力
- 自治体・企業・地元等各関係者間の橋渡し役となる調整力

プロジェクト名	北海道上士幌町 ゼロカーボン推進プロジェクト
年齢	40歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.7～
出身地	兵庫県尼崎市
転出元	埼玉県三郷市
前職	都市・交通計画シンクタンク

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

関西から憧れて移住し、4年弱過ごした十勝。一度関東圏に移りましたが、再び十勝の地に戻り仕事がしたいと考えていました。その中でも、最先端の取組を推進している上士幌町について、以前の十勝居住時代から「おもしろい街」であると興味を持っていました。SDGsやゼロカーボンに関する知識はほとんど無かったものの、この街で、この仕事に取り組みたいと思い、応募したことがきっかけです。

⑧ 環境保全・自然保護

○ 活動内容・取組成果

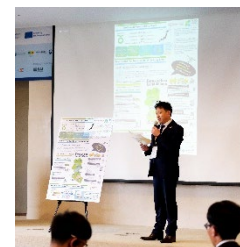
< SDGs普及・推進 >

「SDGsを軸とした持続可能なまちづくり」を推進する本町において、SDGsをさらに普及・推進していく「リーダー」として業務に取り組んでいる。特に現在、町民の行動変容・普及啓発に力を入れ、ポイント制度や町民マスター制度、町内活動をつなげるコミュニティサークル構築等を進めている。



< 対外的な普及啓発活動 >

本町におけるゼロカーボンやSDGsに係る取組について、行政視察の受入や、雑誌掲載等の取材、セミナーでの講演・発表等、引き続き精力的に実施。また、日本国内にとどまらず、韓国ソウルで開催された「世界気候エネルギー首長誓約」のワークショップでの発表など、ワールドワイドに取組を行っている。



< 町民等への普及啓発活動 >

町内の小学5年生を対象とした、年間30時間のSDGs出前授業をはじめとして、中学・高校や町職員・議員、町内団体など幅広くSDGsの出前授業・講座を実施している。また、町民や町内団体をメンバーとしたワークショップを開催し、町民のSDGsに対する意識醸成もふまえて、普及啓発を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：

kikawa-yousuke@town.kamishihoro.hokkaido.jp

職場電話番号：01564-7-7255（直通）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.kamishihoro.jp/sp/sdgs/>





ノウハウ

- 前職の大林組にて、宇宙エレベーター、宇宙居住に関する検討
- S-Booster2018にて未来コンセプト受賞
- 三菱総合研究所主催「フロンティアビジネス研究会」にて、居住WGリーダーを務める

プロジェクト名	大樹発！航空宇宙関連産業集積による地域創生推進計画
年齢	32歳（R5.4.1時点）
活動時期	R3.5～
出身地	東京都豊島区
転出元	北海道大樹町
前職	建設業（株式会社大林組）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

大樹町で北海道スペースポートを実現させ、宇宙版シリコンバレーをつくることで、地方創生を実現するため、また、日本が宇宙産業で世界に勝つ未来をつくるため志望しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<企業版ふるさと納税獲得のためのPR業務>

北海道スペースポート拡充整備等のプロジェクト資金調達のため、企業訪問やPR等により、企業版ふるさと納税の獲得業務を行っている。令和4年度は71件、14億685万円の寄附（航空公園事業拡充事業2億6365万円、航空宇宙関連ビジネス推進事業11億4320万円）をいただくことができ、寄附金額では全国2位、寄附件数は全国1位となった。

<ロケット射場等整備に係る業務>

新たなロケット発射場等整備に係る基本設計等の業務に取り組み、小型人工衛星打ち上げ用の「Launch-complex1(LC-1)」が、2023年度完成予定。



<北海道スペースポートPR業務>

帯広市で、宇宙ビジネスカンファレンスである北海道宇宙サミットを開催し、モデレーターとして登壇。北海道における宇宙版シリコンバレー創出に向け、機運醸成や北海道スペースポートのPRを行った。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：press@spacecotan.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

HP：https://hokkaidospaceport.com/donate/

X（旧Twitter）：北海道スペースポート@hospojapan



ノウハウ

- 事業計画策定と補助金申請
- プログラミングによる作業自動化とビッグデータ解析
- 調査企画と結果分析、ファシリテーション

プロジェクト名	官民連携による地域共創プロジェクト
年齢	50歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	北海道芽室町
転出元	神奈川県藤沢市
前職	事業開発コンサルティング業 (個人事業主)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの他の自治体におけるスマートシティ事業企画および運営の経験を活かして、大樹町の地域共創によるまちづくりを推進し、脱炭素と宇宙産業や農林水産業の発展を両立することで、生まれ育った十勝の振興に貢献するために志望しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<住民・団体等との意見交換会の企画・運営>  
多様な住民とともに、まちの課題解決に向けた意見を出し合い、大樹町の新たな魅力や価値を創り上げていくことを目的とする未来共創会議の企画・運営。R5年度は、3月6日に予定されている第二回会議で、意見交換を活発化するためのアンケート調査とデータ分析、進行を企画する予定。

<ゼロカーボン実現に向けた事業推進業務>  
大樹町地球温暖化対策実行計画を事業計画に落とし込み、補助金申請を支援する。R5年度は、畜産系バイオメタンをロケット燃料とする計画実現を支えるバイオマス循環ネットワークづくりなど、事業者や住民と協働する重点プロジェクトを実行する事業計画策定のための基礎的調査と数値分析、方針骨子作成を行っている。

<地域共創によるまちづくりの仕組みづくり>  
様々な職業や世代の町民ヒアリングを実施し、地域課題を洗い出すとともに、各種制度を活用した専門人材の誘致により、必要なスキルやノウハウを住民に供与することで、町と住民が協力協働して地域課題を解決するための取組を計画している。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sumie.goto@bloomalot.jp

電話番号：01558-6-2113



ノウハウ

- 大手民間企業におけるの管理職経験（＝マネジメント力）、経営理論、マーケティング知識
- Uターン人材として首都圏のニーズと地方の魅力を接続させ、返礼品開発・企画、商品化、販促、効果検証、改善ができること
- 飽くなき探求心、開拓魂、行動力、諦めないマインド、そして郷土愛

プロジェクト名	ふるさと納税事業推進プロジェクト
年齢	46歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.7～
出身地	北海道池田町
転出元	東京都江東区
活動経験	池田町地域おこし協力隊（R3.5～R5.6）
前職	外食企業5年、教育関連企業16年

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和3年5月からの2年2ヶ月間、池田町で地域おこし協力隊のふるさと納税推進員として業務に携わりました。今般、町の重要プロジェクトにふるさと納税事業が位置付けられ、このプロジェクトの目標達成を地域プロジェクトマネージャーとして目指すことが、これまで以上に町に貢献し、恩返しをすることにつながると考え、応募に至りました。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<活動内容①>

「産業振興、地域活性化」を重要プロジェクトとしてふるさと納税寄付額10億円を目指している。納税業務は多岐に渡るが、外部委託をしていないため、寄附者対応、配送管理、返礼品開発、書類作成封入、請求、広告宣伝、アクセス分析競合チェック、サイト管理などの進捗確認をしつつ、課内のメンバーと協力しながら対応している。



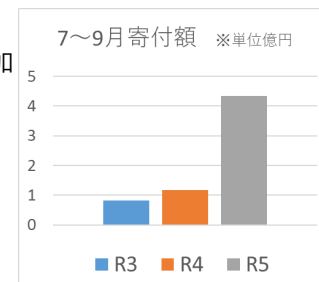
<活動内容②>

自治体、納税関連企業、生産事業者、関係者間の調整を図る「ブリッジ人材」として積極的にコミュニケーションを取って信頼関係を構築している。特にサイト運営会社と密である。関わる関係者は全て同じチームと考え目標達成を目指している。年度では寄付件数、寄付額ともに過去最高の昨対比3倍ペースで推移している。※9月末現在



<取組成果> R5年7月～9月

納税事業者意見交換会 過去最高9社参加  
 サイト主催勉強会 3回参加し展開中  
 主要サイトアクセス数 前年対比167%  
 寄付件数 3.5万件（前年比388%）  
 寄付額 4.3億円（前年比371%）  
 新規参入事業者 3社（商品券系）  
 CVR（転換率＝購入率）前年対比150%



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：furusato@town.hokkaido-ikeda.lg.jp

職場電話番号：015-572-3112

（池田町役場企画財政課）



ノウハウ

- 関係人口として20年以上関わり、地域の実情に精通
- 地域づくりノウハウ、人を巻き込みやる気にさせる能力に長けている

プロジェクト名	関係人口と住民による地域共創事業
年齢	39歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7~
出身地	静岡県富士市
転出元	愛知県岡崎市
前職	デジタル化コンサル (日本IBM株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

当町伝統芸能「荒馬」に20年以上関わり続けている関係人口です。長年関わる中で地域の衰退を目の当たりにし、関係人口と住民による任意団体「おおかわだい好き大作戦」を立ち上げ、民間でのまちづくり活動を展開しました。関係団体等との橋渡しをしつつ「住みたいまち」づくりと「住み続けられるまち」づくりを目指し地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<地域商社立ち上げ>

地域商社を立ち上げ、現在、青森県の関係人口事業を受託している。町の宿泊施設の管理も受託しており、観光客の受け入れ増加を目指し、組織の自走化に向けて奔走中。



<関係人口の交流>

伝統芸能をフックとして既存の関係人口と住民の協働を促進し、町外へのPRを実施。関係人口が生き生きしている様子を発信することで、新たな関係人口創出にも取り組んでいる。



<地域内小規模イベント実施>

地域内の空き家を活用したマルシェやワークショップを開催し、住民と関係人口を巻き込むことで、地域住民の主体性を育むとともに、関係人口の関わりしるを創出。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：y-sufu@town.imabetsu.lg.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/sufu.yuma/>



ノウハウ

- 直接・間接金融に係る様々なスキーム、IT開発、データ分析、プロジェクトマネジメントの実務経験
- 起業、経営分析、ビジネスモデルなどに関する経営学(MBA)に裏付けされた知識
- 首都圏での外販促進に係る金融機関上層部、飲食店経営者、地方創生経験者などとの人脈活用、ネットワーク作り

プロジェクト名	地域の稼ぐ力の向上
年齢	63歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.10.1～R5.9.30
出身地	北海道札幌市
転出元	東京都北区
前職	カスタマーソリューションマネージャー (アマゾンウェブサービスジャパン株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

証券や財務などの関連会社を含めて多様な業務に関わってきた中で、「経験を整理し、経営支援に携わりたい」との思いが強くなり、働きながら経営学修士(MBA)を取得しました。

「地方の課題をどう解決するか、学びを生かせる場を探していた」ときに一関市の人材募集に出会いました。

○ 活動内容・取組成果

<課題把握・人脈作り>

着任後、8市町村が合併した一関市の広範な中山間地域巡りや、関係者50社以上への挨拶回りを行った。また、市で企画・開催している販路開拓セミナーや商談会をはじめとする様々な施策への参加、生産者の方々からの個別相談を通じて、課題の深掘を行った。



<稼ぐ力に資するビジネスモデル検討>

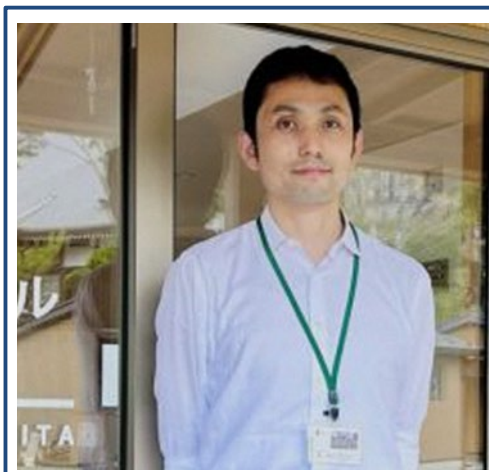
首都圏販路拡大のためのネットワーク作りや事業者間のマッチング支援のほか、小規模事業者に代わって販路開拓を担う機能の構築に向け、地域商社的機能ビジネスモデルに係る市内流通実証実験計画を作成した。



【連絡先】

電話番号：0191-21-8317 (一関市役所生産流通課)





ノウハウ

- 新規事業の立ち上げ時、既存、新規いずれの関係者に対しても、深く、丁寧なコミュニケーションを図れる
- 新たな地域で楽しく暮らすため、地域の「当たり前」（自分にとっては違和感）を見つけ、満喫できる

プロジェクト名	仕事・学びの場創出事業
年齢	49歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.5～
出身地	茨城県水戸市
転出元	宮城県仙台市
前職	みちのく潮風トレイル統括本部長 （特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前々職で、住田町を含めた三陸沿岸の市町村と関わっていたが、前職でも三陸沿岸で仕事をしながらも、住田町だけ関わっていないことを心残りに感じていました。  
岩手県内で転職することになり、地方創生や三陸に関わる仕事を探している際に、募集記事を見つけ応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<オープン準備>  
施設のオープンに向け規則やホームページの作成、その他必要書類の準備を行った。  
その結果、R5年5月に施設をオープンすることができた。



<起業相談会>  
利用者から起業についての相談をする場がほしいとの強い要望を受け、商工会議所と連携し起業相談会を開催した。  
相談者の1人が専門家を交えて話し合いを行うなど、起業に向け本格的に順位を行うきっかけとなった。



<記念イベント>  
オープンしてから4か月目現在で来場者が1,000人目前となったことを受け、1,000人達成記念イベントを行うこととした。  
当日、地元の高校生が記念すべき1,000人目となり、地元のメディアやSNSで情報を広く発信することができた。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：seki.icowellsumita@gmail.com  
職場電話番号：0192-47-5075

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

イコウェルすみたHP：https://www.icowell-sumita.com/



ノウハウ

- 酒類の製造・販売等の実務全般、組織マネジメント
- 地域密着型の企業経営、地域連携、商品開発
- 日本ソムリエ協会 ワインアドバイザー

○ 活動内容・取組成果

<農林水産物の高付加価値化>  
 農林水産物の高付加価値化に加え、地域産品の販路開拓や商品開発支援、マーケティング、ブランディング、自然や地域資源を活用した地域全体の振興、持続可能なビジネスモデルの構築支援などを実施している。

<企業・事業所等との協業支援>  
 生産者、関係団体、第3セクターと行政との連携を目指し、その橋渡しを行っている。

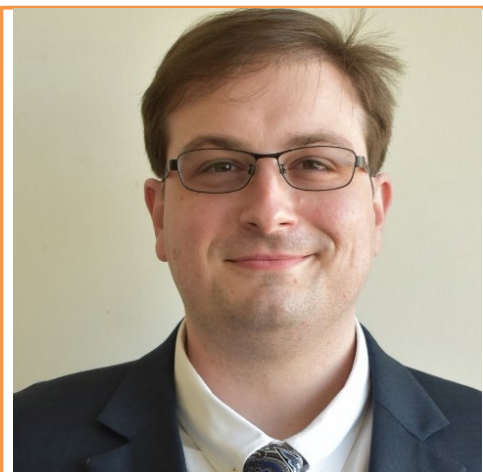
プロジェクト名	地域活力を創造する産業の展開
年齢	55歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.10.16～
出身地	岩手県盛岡市
転出元	岩手県盛岡市
前職	会社役員（株式会社ベアレン醸造所）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまで携わってきたベアレン醸造所と野田村の地域連携活動で縁をいただいた方々とのつながり、また昨年歩いたみちのく潮風トレイルで北三陸の自然や風土に触れた経験から、より地域に根差した活動で野田村の振興に関わりたいと思い応募しました。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sangyo\_norin@vill.noda.iwate.jp  
 職場電話番号：0194-78-2926（野田村産業振興課内）



### ノウハウ

- High English skills
- Adaptable person
- Passion for music

プロジェクト名	多文化共生プロジェクト ～英語と音楽が響くまち～
年齢	32歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.2～
出身地	アメリカ イリノイ州
転出元	アメリカ イリノイ州
前職	外国語指導助手 (加美町)

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

町の職員の方がとても親切で、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたことが印象的でした。また、音楽を通じて知り合った人々は、文化が違って理解しあうことができることを確認しています。加美町が求めている「英語教育のさらなる向上」「音楽のまちづくりの推進」「国際理解教育の充実」などをお世話になった加美町に還元したいと思い、応募しました。

### ⑪ 教育・文化

#### ○ 活動内容・取組成果

<イングリッシュキャンプ>  
教室外の英語に触れることを目的として、町内児童生徒から参加希望者を募り、イングリッシュキャンプを実施。多くの児童生徒から「また参加したい」という声を多くいただいた。



<英会話教室>  
町民参加型英会話教室を年5回実施した。英会話のほかに、日本とほかの外国の違いについても説明し、異文化交流を図った。全体の参加者は50人ほどで、来年以降も継続したい。



#### <音楽活動>

中新田中学校マーチングバンドの外部コーチに就任し、県大会では指揮者として登壇。金賞を受賞し、同校を東北大会へ導いた。

#### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hito-shigoto@town.kami.miyagi.jp

職場電話番号：0229-63-5611

(加美町役場ひと・しごと推進課)



### ノウハウ

- 地域での脱炭素活動を通じた地域の活性化
- エネルギーの地産地消の実現
- 公的支援と民間資金の有効な連携

プロジェクト名	カーボンニュートラル推進事業
年齢	56歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.10～
出身地	東京都東久留米市
転出元	宮城県仙台市
前職	公務員（環境省東北地方環境事務所）

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまで徳島県、福岡県等で生活した中で、日本の地域の活性化に関心を持っていました。そして、地域の活性化のためには、私の専門でもある脱炭素の取組が有効であると考えていましたが、その中で地域脱炭素を実現するという本ポジションの募集があり、応募することとしました。

### ⑧ 環境保全・自然保護

#### ○ 活動内容・取組成果

<地域新電力育成支援業務>  
鹿角市も出資している地域新電力会社である「かづのパワー」が、エネルギーの地産地消を当地域で広めるため、案件形成、普及促進等の各種支援を行っている。



<再エネ設備導入等脱炭素推進業務>  
地域のカーボンニュートラルを推進するため、市の補助事業など公的支援も活用しながら、再エネ設備等が導入されるよう、地域の関係者に支援を行う。



<カーボンニュートラルの普及促進>  
地域のみなさまが、カーボンニュートラルがどのようなもので、どのように取り組むとよいのか等を知っていただくような、広報、ツール開発などを実施していく。



#### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：mitsuhiro-maehara@city.kazuno.lg.jp

職場電話番号：0186-30-0249

ノウハウ



○普通自動車運転免許  
\*平成元年4月～令和4年3月まで東京都区役所職員

プロジェクト名	農林業及び観光業の担い手の拡大と育成事業
年齢	56歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.6～
出身地	秋田県大館市
転出元	東京都板橋区
前職	事務職 (人事部創設担当) (株式会社シンワ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東京一極集中の一方で地方では少子高齢化や過疎化の進行が顕著であり、地方活性化の一助になりたい、いずれは地元に戻って地域の役に立ちたいと考えていたところ、地元秋田でこの募集を知りました。行政最後の勤務先「地域センター」では、地域の方々との地域活性化に取り組みました。その経験を活かし、地域一体となったプロジェクトに貢献したいと思ったことから応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

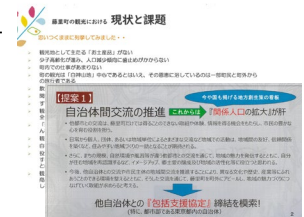
<地域観光機関、団体等との連携・協調>  
観光業に関わる事業者や関心のある個人、行政機関による「観光会議」の開催。町の観光の課題の洗い出し→解決・実現策→実現に向けて協議・連携していく会の企画・運営を担う。  
第1回は多様な団体・個人20名が参加。



<行政機関等への献策・協力>

プロジェクトの進捗状況、事業の報告・連絡・相談の場として、町商工観光課との定期的な打合せを実施。事業の協力連携、財源確保の協議を行っていく。

<地域の現状把握及び分析、戦略提言>  
町の現状と課題を把握し、戦略の提言を行う。町に提案書(2提案)を提出し取組を進めている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: shirakami-kankou@bz03.plala.or.jp

職場電話番号: 0185-79-2518 ( (一社) 白神山地ふじさと観光協会)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/p/CtJDwuahqXM/>

<https://www.facebook.com/morinoeki55>

<https://twitter.com/morinoeki55>



ノウハウ

- 中央省庁と市役所の両方での行政実務
- 遊休公共施設の利活用の企画や企業誘致
- Jターン移住、起業の実体験

プロジェクト名	中心市街地にぎわい創造活性化事業
年齢	37歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7~
出身地	岩手県奥州市
転出元	東京都杉並区
活動経験	村山市地域おこし協力隊 (R3.7~R4.6)
前職	国家公務員 (農林水産省)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・ 農林水産省勤務時に村山市に出向。市の中心地にある旧県立高校跡地の利活用プロジェクトをゼロから企画し、利活用構想を策定しました。
- ・ 遊休公共施設を地域活性化の拠点にリノベーションするプロジェクトにやりがいを感じ、構想策定だけでなく施設改修や管理・運営まで一貫して従事するべく、村山市地域おこし協力隊としての業務経験を経て、地域プロジェクトマネージャーの公募に応募しました。

② 不動産利活用

○ 活動内容・取組成果

<廃校リノベーション施設の運営>  
 高校跡地のリノベーション施設 Link MURAYAMAの運営企画業務を担当。市内外の19事業者が入居するほか、公益的な市民活動やマルシェ等の会場として使いやすい利用ルールとすることで、毎週のように催事が行われ、にぎわいを生んでいる。



<商店街空き店舗の利用流動化>  
 Link MURAYAMA等の設置により、市内に拠点を求める事業者や起業希望者の声が顕在化したため、空き物件の調査を実施。商工会や地元起業家と連携して、物件所有者とコミュニケーションを取り、賃貸や事業承継に向けた枠組みを検討中。



<視察対応・ノウハウ提供>  
 遊休公共施設の再生について、まったくのゼロから企画して利活用構想を策定した経験や、日々の管理運営の実務をもとに、同様の課題を抱える自治体・地方議会等の視察を受け入れ、実践的なノウハウを提供。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：link@city.murayama.lg.jp

職場電話番号：0237-48-8212

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/satoyosuke910>



ノウハウ

- 各競技団体との連携
- スポーツ大会の運営
- 全国の地域スポーツ  
コミッションとの連携

プロジェクト名	福島市スポーツコミッション
年齢	63歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.5～
出身地	北海道札幌市
転出元	大阪府豊中市
前職	会社員

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでのキャリアで培ってきた経験を活かし、スポーツ庁が進める地域スポーツコミッションの自立・民主導化を進めるため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

⑫ スポーツ

○ 活動内容・取組成果

<スポーツ合宿の誘致・受け入れ>  
 精力的な誘致活動を行い、パラスポーツを中心に合宿を実施している。令和5年7月には身体障害者野球日本代表チームが大会直前合宿を実施し、9月の世界大会で見事優勝した。



<スポーツ大会の開催>  
 福島市スポーツコミッションの初めての自主事業として、県外からチームを募集し、1泊2日の日程でO-60のサッカー交流大会を実施した。



<スポーツ体験会の実施>  
 パラスポーツへの関心を深め共生社会への理解を図る目的で、ボッチャやブラインドサッカー体験会を実施。福島市民がスポーツを身近で体験できる機会の創出を図った。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：info@fc-sc.jp

電話番号：080-4130-5500（公用携帯）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://fc-sc.jp/>

<https://www.facebook.com/fukushimacity/sc/>





ノウハウ

- 前職場において、営業、支店管理、本社における企画部門、システム部門、広報を経験
- 自転車に関しては、現在150名が活動する自転車チームの事務局長となり、チームを運営
- 東京サイクリング協会所属時は、スポーツバイクの乗り方指導、自転車に乗れない人のための乗り方指導、視覚障害者とのタンDEM自転車を楽しむ会等を経験

○ 活動内容・取組成果

<伊達市に自転車乗りを集める1>  
伊達市に自転車乗りを集めるために、WEBアプリ上に走るルート、走ったルートを掲示し、Facebook、ブログで公開している。現在は、新記事を掲載すると2日以内には100ビューを超える状況。



<伊達市に自転車乗りを集める2>  
伊達市は、人口の多い福島市からでは目的地になることは少ない。伊達市がサイクリストにやさしい街としてのアピールとして、飲料水の自販機にタイヤチューブの併売を開始した（伊達市内に5台設置）。



<伊達市に自転車乗りを集める3>  
閉校となった小学校を活用した、自転車と一緒に宿泊できる簡易宿泊施設への誘客を実施。  
国内の超長距離走クラブなどへイベント企画書を提出し、R6年度の予約を開始した。



プロジェクト名	旧小手小学校リノベーション
年齢	56歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.8～
出身地	埼玉県戸田市
転出元	埼玉県戸田市
前職	損害保険 （共栄火災海上保険株式会社）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・趣味の自転車イベントのコミュニティで、挑戦者募集としてリノベーション担当の応募が掲示されていたことがきっかけです。
- ・会社も役職定年を迎えており、前職場でシステムのお守りで定年までということも考えましたが、自分の遊びの経験を生かせるのではないかと思います応募しました。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：motoo-koga@city.fukushima-date.lg.jp

電話番号：024-572-2111（職場）

080-8562-8370（業務用携帯）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.datecitypm.com>

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100084688784364>







ノウハウ

- コミュニケーション（対話）を軸とした、チーミング（チームで仕事をする）こと
- ディレクションすること（人と人を繋ぐ）
- マネジメントすること（実行・管理）

プロジェクト名	磐梯町デジタル変革プロジェクト
年齢	40歳（R5.4.1時点）
活動時期	R3.4～
出身地	愛媛県今治市
転出元	東京都墨田区
前職	役員（株式会社YUKARI）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

以前から、行政の仕事へ関わりを持ちたいと思っており、また、自然豊かな場所で子育てをしたいと思っていました。

そうした中で、両方の希望を満たすことができる選択肢が、磐梯町での地域プロジェクトマネージャーでした。

自分がこれまで培った知見を活かして、磐梯町の活性化に貢献していきたいと思っています。

⑩ デジタル

○ 活動内容・取組成果

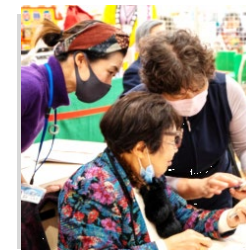
<ばんだいコイン>

磐梯町独自の電子決済手段である地域デジタル通貨「ばんだいコイン」の導入及び運営の中心となって業務に従事。町外者の利用も視野に入れ、地域経済の活性化を図る。



<なんでも相談会>

地域のDX促進の一環として、デジタルデバイドの解消と町民のITリテラシーの向上を目指し、高齢者向けのスマホ教室とデジタルを含む行政全般の困りごと相談会の開催を主導。



<DX戦略室タスク管理・連絡調整>

DX戦略室の現場メンバーとして、タスクの進捗をとらえながら、他課の職員や外部人材、その他の関係者と連絡調整を行い、事業のスムーズな進捗に貢献。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：bandai-dx@town.bandai.fukushima.jp

職場電話番号：0242-74-1221

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.town.bandai.fukushima.jp/>

<https://www.facebook.com/kumiko.watanabe1121/>

ノウハウ



- 民間事業者との事業実績
- 国際交流事業の実績

プロジェクト名	行方市地域プロジェクトマネージャー
年齢	60歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.8～
出身地	モンゴル国
転出元	東京都渋谷区
前職	外交官 (駐日モンゴル大使館 経済・貿易担当参事官)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

行方市と事業を通して関わる機会があり、市長をはじめ職員の皆さんとの交流を重ねる中で、行方市の発展のため一生懸命に取り組んでいる気持ちが伝わりました。このような素晴らしい方々と一緒に仕事がしたいという気持ちが動機になりました。

○ 活動内容・取組成果

< 企業誘致活動 >

- ・市内の工業団地や廃校跡地への企業立地に向けたPR
- ・国内外を問わない企業視察の受入



< 産業活性化活動 >

- ・国内外の事業者と地元、事業者とのビジネスモデルの計画協議



< 国際交流活動 >

- ・行方市とモンゴル国との友好交流協議 (駐日モンゴル大使館へ協議訪問)



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：name-jisui@city.namegata.lg.jp

職場電話番号：0299-72-0811



ノウハウ

- ふるさと納税に係る専門知識
- 地域特産品に関する企画・プロモーション

○ 活動内容・取組成果

- ・境町ふるさと納税推進担当、さかいまちづくり公社、境町観光協会、商工会などの関係機関との打ち合わせ及びふるさと納税、町内商工観光施策、施設の現状把握。



- ・町内スポーツ施設を活用した町の認知度向上とふるさと納税寄付の向上に向けた施策検討及び情報収集。

- ・新たなふるさと納税返礼品の開発提案に向けた情報収集。

プロジェクト名	スポーツを核としたまちづくり (関係人口の創出)
年齢	49歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.6.15～
出身地	福岡県福岡市
転出元	福岡県福岡市
前職	株式会社plan代表取締役

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

官民共通の課題である地域の賑わいや人口減少に対して、官民が連携して同じゴールを共有し、それぞれの役割を果たすことでまちづくりを形成していきたいという思いがありました。ふるさと納税制度を活かしたまちづくりをはじめ、地域の課題である空き家対策問題や定住促進などの活動経験を活かし、町の将来や自分たちが出来ることを考えたりする機会を設け、地域に眠る資源をもっと活かした「強い田舎を創りたい」という気持ちが動機に繋がりました。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：soumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp

職場電話番号：0280-81-1300

(境町役場総務課)



## ノウハウ

- スタンフォード大学  
MBA
- 自治体コンサルティング
- 日本オリンピック委員会をはじめとする  
国際関係機関とのコ  
ネクション

プロジェクト名	スポーツを核としたまちづくり (国際大会の誘致)
年齢	66歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.6.15～
出身地	東京都中野区
転出元	東京都中央区
前職	ABCプランニング株式会社

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

スポーツのイベント企画や教育事業などの業務で、地域の課題や改善の機会を見極めて中、境町のビジョンに共感し、地域プロジェクトマネージャーのポジションに興味を持ちました。自身の豊富な経験とネットワークを活かし、JOCや競技団体などと連携して、プロジェクトの企画・立案から実行まで、成果の追求をリードし、地域の成長に貢献したいと考えています。

## ○ 活動内容・取組成果

2023年9月  
アーバンスポーツで世界的に有名なフランス・モンペリエ市との友好都市協定締結の調整役等を担う。



2023年5月から建設中の境町「アーバンスポーツパーク2nd」への国際大会誘致に向けて、モンペリエ市のBMXワールドシリーズ大会を視察、同市との関係深化に注力。



## 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：soumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp

職場電話番号：0280-81-1300

(境町役場総務課)



ノウハウ

- スポーツ合宿のコーディネート
- イベントやツアーの企画

プロジェクト名	スポーツツーリズムの推進
年齢	34歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.4～R6.1 (退職済み)
出身地	栃木県那須塩原市
転出元	栃木県矢板市
活動経験	矢板市地域おこし協力隊 (H29.1～R1.12)
前職	拓殖大学紅陵高校

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

協力隊員時の取組を契機に、市でもスポーツツーリズム振興を重点施策に位置づけ、観光協会の法人化などにも取り組んでいる中で、推進組織である矢板スポーツコミッションの機能強化に寄与するため着任しました。

○ 活動内容・取組成果

<スポーツツーリズムの推進>  
 コロナ禍により合宿件数は伸び悩んだが、合宿団体からの相談対応のほか、さらなる誘致に向けて競技団体、宿泊施設・飲食店と行政の調整役を担っている。



<観光コンテンツの造成>  
 着地型、滞在型観光商品の造成に向け、市内観光事業者による意見交換会を主催し、旅行商品の造成やモニターツアーの企画を行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：info@yaita-kankou.com

職場電話番号：0287-47-4252

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://jajp.facebook.com/yaitatourismassociation/>





### ノウハウ

- 地域の課題や住民のニーズをくみ取り、独自の図書館サービスを展開
- 展開するサービスを軸に、図書館運営を構築

プロジェクト名	新図書館プロジェクト
年齢	56歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.4～
出身地	愛知県豊橋市
転出元	愛知県蒲郡市
前職	司書（豊橋市まちなか図書館）

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職で新図書館立ち上げに携わり、やりがいを感じたことから、その経験を活かせる益子町の新図書館建設計画に関心を持ち、志望しました。

### ⑪ 教育・文化

#### ○ 活動内容・取組成果

##### <新図書館>

地域の顕在的、潜在的なニーズを探り、サービス構築へつなげるため、住民グループと対話したり、地域全体の読書環境を知るため、書店主たちとの対話を行っている。

##### <図書室の運営>

図書館が住民の生活に役立つ、というメッセージを伝えるため、コーナー設置や、特集展示などを通じて、図書室の整備に注力している。

##### <移動図書館の運行>

図書館建設の認知度を上げるため、保育園、小中学校、道の駅など町内の17ステーションを巡回。

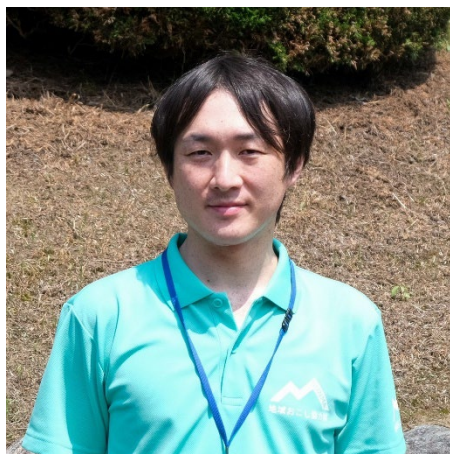


#### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：syougai@town.mashiko.lg.jp

職場電話番号：0285-72-3101（生涯学習課）

ノウハウ



- 企業経営(15年目)
- 機械設計(設計～加工～組み立て等)
- 木材加工(木材作業用機械作業主任者等)

プロジェクト名	未利用材や端材等を活用した体験事業と新商品開発プロジェクト
年齢	37歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.8～
出身地	千葉県船橋市
転出元	千葉県船橋市
活動経験	みどり市地域おこし協力隊 (R2.8～R5.7)
前職	地域おこし協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

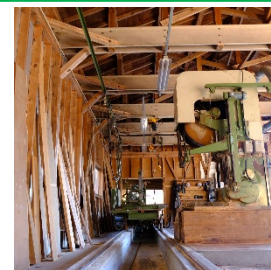
協力隊時代に活動の拠点としていた「わらべ工房」のポテンシャルに気づき、具体的な進路や自身の売り上げを元に今後の可能性を自治体に提案し、翌年度、地域プロジェクトマネージャーに着任しました。

○ 活動内容・取組成果

<工房の環境整備>

全体の機材の把握～再起動、整理整頓、安全確認、来客体制の強化など本来の工房としての機能を整備。

木工設備と体験コーナーが併設されている事を強みとした施設を目指す。



<商品開発>

地域に根差した材を使用した商品の開発をはじめ、未利用材や廃材の活用を見直し、引継ぎ可能な商品の開発を行う。また、地域の企業や協力隊等と連携した販促体制を整備中。

(写真:端材から作った羽子板、みどり市指定重要無形民俗文化財に指定されている削り花を使用した羽根)



<出張ワークショップ>

地域の材を使用した体験型ワークショップを、各地のイベントや施設で実施。わらべ工房のPRやみどり市と他地域の関係人口増加を狙う。

(例:竹害とされ処分されていた竹を再活用した竹灯籠作り体験)



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: minsei-a@city.midori.gunma.jp

職場電話番号: 0277-97-2581 (わらべ工房)

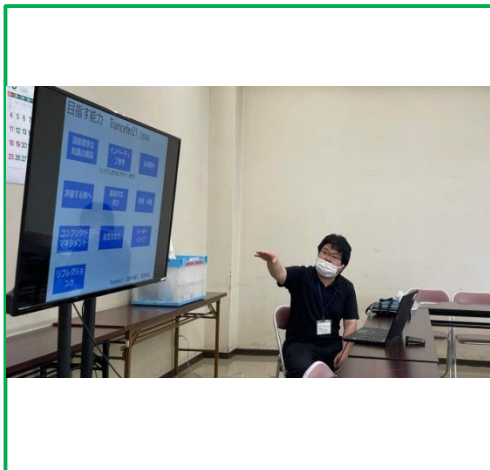
0277-76-0984 (みどり市東市民生活課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.instagram.com/warabekoubou.midori/>



WARABEKOUBOU.MIDORI



ノウハウ

- バイオマスをはじめとするエンジニアリングの知識(修習技術者)
- マーケティング、価値共創を中心とした企業経営戦略の知識(理工学修士)
- 学びを創るファシリテーターとしての知識や経験(社会教育士)

プロジェクト名	中之条町木材活用センターソフト事業プロジェクト
年齢	27歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	栃木県小山市
転出元	福島県福島市
前職	アシスタント・プログラムオフィサー (一般社団法人Bridge for Fukushima)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職で、プロジェクトを創ることを学び、さらに大きなプロジェクトにチャレンジしていきたいと考えていました。中之条町へは地域プロジェクトマネージャー養成講座で訪れたことがあり、町の取組に興味を持ちました。関わっていく方々の雰囲気がよく、外部の受け入れに慣れている地域であったので、自身の経験を活かし、中之条町で挑戦したいと思い、公募の結果、現在に至ります。

○ 活動内容・取組成果

<森林環境教育の実施>

森林との交流を増加させることを目的とした「森の学校」では、友好都市である東京都北区の小学生、中之条町の小学生を対象に3回、地域のNPOや東電用地(株)とカリキュラムを共創した。昨年と同様に大学生にも企画、運営に関わってもらい、大学生の成長も見られた。参加した小学生、保護者からも高い評価を頂いた。



<木工の促進>

モノを購入する際に、木製のものを選択肢に入することを目的に、町内の木作家5名、製材所、建具職人を巻き込みチームを結成した。チームでは、販売力を向上させるためにHP作成やEC機能の構築の支援を行った。また、新商品作製の支援も行い、アンブレラマーカースマホスタンドを新たに作製し、生産力の向上を図った。



<自伐型林業の推進の検討について>

森林に関わる方の多様性確保を目的として、自伐型林業の推進を検討している。県内の先進事例として、みなかみ町とみどり市の視察を行い、本町に導入する際の課題などを洗い出した。町内の山林所有状況や自伐型林業の興味関心の有無などを調査するために、データをまとめ、アンケートを実施。分析を行い、どのように推進させていくかの検討・調整を行っている。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ringyou@town.nakanojo.gunma.jp

職場電話番号：0279-75-8849 (直通)

(中之条町役場農林課林業振興係)



<Facebook>



ノウハウ

- 写真・動画の撮影及び映像編集
- 商店街づくりに係る取組



プロジェクト名	ハッ場ダム下流地域振興プロジェクト
年齢	45歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	東京都杉並区
転出元	東京都杉並区
活動経験	東吾妻町地域おこし協力隊 (H30.10～R4.3)
前職	自営業 (小川眼鏡店)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊で培った経験や地域の人々と築いた関係性を更に活かして、ハッ場ダム下流地域等の振興及び活性化に貢献したいと考えたため、応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<自転車型トロッコ事業>

自転車型トロッコの運営事業に関し、責任者の立場として取り組んでいる。利用者数に関して、R3年度は8,600人、R4年度は21,000人、R5年度についても前年を上回る見込み。



<ハッ場ダム周辺地域連携>

町内飲食店・宿泊施設や群馬県、近隣町村と連携し、互いにメリットを生む観光客誘致を目指している。各施設との連携を目指し、観光客増加に向けた意見交換の場を検討中。



<友好交流都市との交流マネジメント>

東吾妻町の友好交流都市「杉並区」において、阿佐ヶ谷七夕まつりに当町の農産物PRブースを出店し、さらなる自治体間交流の橋渡しを担っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：t-shinko@town.higashiagatsuma.gunma.jp

職場電話番号：0279-68-2111

(東吾妻町役場まちづくり推進課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://note.com/higashiagatsumap/>



ノウハウ

- 宅地建物取引士  
FP1級
- 信託銀行勤務時代、  
店舗企画・支店運営  
を多数経験
- 高齢者施設、病院等  
の経営経験

プロジェクト名	みんなで安心して暮らせるまち 実現プロジェクト
年齢	65歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.8～
出身地	東京都杉並区
転出元	東京都杉並区
前職	代表取締役 (株式会社モデラート)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

人口減少、少子高齢化といった厳しい現実と向き合いながら、人やまちを元気にしていこうとする町のビジョンに共感し、地域活性化起業人、地域おこし協力隊とも連携しながら地域資源を活かして、交流・関係人口を拡大していく今回のプロジェクトに、これまでの人生で培った知識、経験、人脈などを活かしたお手伝いができるのではないかと考え、今回貴重なご縁をいただくこととなりました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<交流・関係人口の創出・拡大>  
町内唯一の宿泊・温浴施設である「フレンドシップ・ハイツよしみ」を、地域資源を活かして、交流・関係人口の創出・拡大につなげる拠点として再生するプロジェクトに、産学官連携で取り組んでいます。



<地域づくりチームのマネジメント>  
地域活性化起業人、派遣元企業、行政など、多様な関係者の相互理解を深めるため、活動状況、課題、気になるトピック等を毎週木曜日の定例ミーティング等を通じて幅広く共有し、チームとして良い成果を出せるように努めています。



<「出会い」のお手伝い>  
自転車交通安全教室の講師にパラリンピックメダリストをマッチングするなど、庁内関係課局や主催者の都合、ご希望を伺いながら、人脈を活かして講習会・イベント等に一味違う講師・ゲストをお引き合わせする取組を続けています。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：y-0245@town.yoshimi.saitama.jp

職場電話番号：0493-54-5026

(吉見町総合政策課直通)



ノウハウ

- 大学で官民共創ノウハウを学ぶ(継続指導あり)
- SDGsを中小企業に導入

プロジェクト名	白子町地域活性化推進事業 (観光振興・DMO設立、運営)
年齢	60歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.7~
出身地	東京都練馬区
転出元	東京都練馬区
前職	営業開発 (株式会社アクシス)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地方公務員の職務経験から、地域活性化の重要性を痛感しており、社会構想大学院大学にて地域PM養成課程を履修しました。  
白子町の振興審議委員に嘱託され、後期基本計画の策定に関わり、その後、白子町にて地域プロジェクトマネージャーの募集があったため応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<白子町観光マスタープラン策定・実施>  
白子町の様々な分野の方(ホテル組合、商工会、サービス業界、白子神社宮司等)とともに、観光のマスタープランを策定中。策定後、その推進団体にプランを実行し、町の観光振興を進める。



<伝統料理承継>  
九十九里周辺での伝統料理である太巻ずしの制作を、「食と健康づくり推進会」を講師に招き、ホテルや飲食店対象に12月に実施予定。3月の桜祭りのコンテンツのひとつとして考えている。



- <観光関連>
- ・農業体験の企画
  - ・白子町の史跡めぐりの企画
  - ・新スポーツの導入(パデル)企画



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@town.shirako.lg.jp  
職場電話番号：0475-33-2180

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100057788216229>

ノウハウ

- 広告、販促、情報発信
- 道の駅立ち上げ及び駅長業務、観光業務
- 特産品、ブランド化、広域連携



プロジェクト名	白子町地域活性化推進事業 (移住定住、ふるさと納税等)
年齢	61歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.9～
出身地	広島県三原市
転出元	三重県四日市市
前職	四日市市シティプロモーション部 (観光交流課)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

広島市で広告代理店の仕事を25年経験したのち、広島県内の道の駅や宮城県角田市の道の駅での業務を経験しました。1次産業、商業、観光振興を横串で考えることや、特産品を作る多くの実践経験、三重県四日市市のシティプロモーション部での経験を活かすため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

< 民活 >

- ・民間企業とのコラボレーションによるシティブランディングと住民サービスの向上及び地域活性化。
- ・伊藤園と連携して取り組む「桜プロジェクト」において、町内の観光スポットである白子神社への植樹を実施。また、第一生命とは、健康増進に関わる事業を実施。



< 経験を生かす >

- ・同じベクトル上にある経験を「白子町」に置き換えて実行。
- ・個で頑張っている起業人を支援（情報発信やネットワーク構築）。

< シティプロモーションの推進 >

- ・イベントのニュースリリースやコンビニとの連携による情報発信。
- ・町のブランドイメージを向上させることで、移住定住の促進を図る。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：keirock10@aol.com

職場電話番号：0475-33-2180

ノウハウ

- デジタルマーケティングの知見、経験
- 広告、宣伝手法



プロジェクト名	「選びたくなるまち」に向けた地域の魅力の発掘、発信
年齢	42歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.10～
出身地	東京都板橋区
転出元	東京都新宿区
前職	コンテンツアキュイジション マネージャー (Netflixエンターテインメントジャパン合同会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

ものづくり、アウトドア、豊かな自然が育む農産物など、三条市には人の原点ともいえる産業が根付いており、現代人が求めているモノ・コトを多く持つポテンシャルの高い地域であると、将来性を感じました。企業や自治体のプロモーションに携わってきた経験を活かし、ふるさと納税を通して、三条市のブランド価値を更に高めることにチャレンジしたいことから応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<ふるさと納税制度の一層の活用に向けた戦略の企画立案、実行>

【活動内容】

- ・魅力ある新規返礼品の開拓をはじめとした、体験型返礼品の拡充。
- ・効果的な広報媒体を活用した情報発信や、三条市の魅力が伝わるコンテンツプロモーション。



<全庁的なプロジェクトの推進>

【活動内容】

- ・プロジェクトの自走化を見据えた効果的な組織・運営体制の提案。
- ・時代の要請を踏まえた市の組織のあり方を捉え直す「プロジェクトシンカ」のリーダーとして、積極的な職員の意識改革を進めている。



<返礼品提供事業者向け説明会の実施>

令和5年5月18日開催

参加数 既存事業者59 新規事業者7

【内容】

- ・令和4年度報告
- ・令和5年度の戦略説明
- ・寄付の伸ばし方プチセミナー



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sawa@city.sanjo.niigata.jp

職場電話番号：0256-34-5519

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://twitter.com/sawa80> [https://twitter.com/sanjo\\_city](https://twitter.com/sanjo_city)

<https://note.com/sawa8>



ノウハウ

- 経営戦略の策定実行
- 新規事業の立ち上げ
- 三現主義  
(現地・現物・現実)
- DX・ICTの推進

プロジェクト名	まちなかウォークブル推進事業
年齢	35歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.10～
出身地	愛知県豊橋市
転出元	愛知県豊橋市
前職	総合商社 (豊田通商株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

グローバルな環境で働く中で、日本の相対的な地盤沈下を多く感じました。一部の大企業や都市部がけん引するのではなく、日本の大部分を占める地方自治体が主体性を持って行動することが、次世代に豊かな暮らしをつなぐ上で必要不可欠であると考え、加茂市の公募求人に応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<中心市街地の再生・活性化>

官民連携まちなか再生推進事業によるエリアプラットフォームの構築や未来ビジョンの策定に向け、商工会議所や商店街、青年会議所や地元大学をはじめとする多様な関係者との協議や意見交換を行い、連携を進めている。



<持続可能なまちづくりの推進>

民間事業者の視点から、市が取り組む各種施策の進捗状況の見える化や全庁横断的な連携・調整に取り組み、中長期的な財源の確保を含めた持続可能な経営戦略に基づいて、地域が抱える課題の解決や施策の推進に取り組んでいる。



<メディアを活用した情報発信>

テレビ局との包括連携協定の締結を主導するなど、シティプロモーションの推進のため、自ら積極的に各種メディアに出演することで、加茂市の知名度向上や魅力の発信、シビックプライドの向上に取り組んでいる。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：t.ichikawa@city.kamo.niigata.jp

職場電話番号：0256-52-0080 (内線350)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

[https://twitter.com/koho\\_kamo](https://twitter.com/koho_kamo)



ノウハウ

- 産業分野の市場調査資料の企画・編集・出版に多く携わった経験から、産業分野全体を熟知
- 企業への取材を中心に、商品や市場開発を含むマーケット分析を行い、課題の克服を提案

プロジェクト名	粟島あらいずプロジェクト
年齢	69歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.12～
出身地	静岡県静岡市
転出元	東京都八王子市
前職	コンサル業 (株式会社ビルネット)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

新たに導入された地域プロジェクトマネージャー制度に参加し、前職で培った経験と知識を活かし、粟島浦村の事業振興に貢献したいとの思いから、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

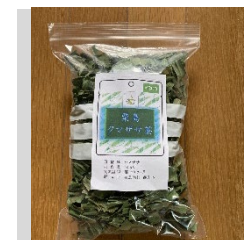
<観光客向け粟島鮮魚セットの販売>  
定置網漁業で捕れた鮮魚の地産地消を目的とし、観光客や住民等へ鮮魚セットの販売を実施している。  
(※写真は、作成した鮮魚販売セットの看板)



<鮮魚販売の告知>  
アプリ(しらせあい)を通じて、粟島定置からの鮮魚販売に関するお知らせを告知(放送)している。  
その結果、宿泊施設運営業者を中心に鮮魚販売が定着した。



<第一次産品の特産品開発>  
本村の歴史的な産業資源であり、未利用地域資源でもある竹類のクマザサを加工した「クマザサ健康茶」の開発等を行った。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: katsushi.u@vill.awashimaura.lg.jp

職場電話番号: 0254-55-2111

(粟島浦村役場総合政策室)



ノウハウ

- 企業再生
- 地域活性化
- マネジメント
- 第三セクターの経営  
再建

プロジェクト名	観光業関連事業者間の調整、町平坦を 拠点とした着地型観光商品の開発及び販売
年齢	68歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.6.1～
出身地	東京都西東京市
転出元	富山県立山町
活動経験	立山町地域おこし協力隊 （H24.4.1～H27.3.31）
前職	代表取締役社長（株式会社たてやま）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

立山町は山岳観光地で有名であるが、その強みを平野部の観光振興に生かせない現状を改善するため、また、機能不全に陥っている観光協会の組織改革と第三セクターの経営指導も合わせて行うことができるのは自分だけだと考えたため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<立山町観光協会改革1>

令和5年度の事業計画・予算計画の立案、総会資料の作成、人事・就業規則・賃金体系の改修などを行った。インフラの整備では、称名滝電動カート導入の実証実験、土曜日営業などの運営改革を行った。またHPを観光客目線でリニューアルし、観光協会の主業務である観光情報の発信に注力した。特に、リアルタイムの観光情報発信や事業者の営業情報発信ができるように改善している。

<立山町観光協会改革2>

自主財源確保を目指し、デジタルマーケティングの実証実験を実施（令和4年10月～5年3月）。結果、平野部誘客にはデジタルマーケティングが必須であることを事業者間で共有できた。今後、協会員に提供できる【PMS】や、HPの【観光プラットフォーム化】などのシステム構築を目指しデジタル化を推進していく。



<第三セクターの経営指導>

ウィズコロナでの施設経営・営業活動を指導。アウトドア施設・温浴施設を中心に販売促進指導を行い、経営の健全化を推進した。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：masa3nob@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

立山町平野部観光情報(ウェブアプリ)：令和5年3月31日に閉鎖

<https://tateyamamachi-kankoukyoukai.com/top>





ノウハウ

- 学校（教育）コンサルティングの経験
- 個別最適な学び・探究的な学び・PBLの理論と実践
- カリキュラム・マネジメントと外部連携

プロジェクト名	社会のWell-beingを実現する学校づくり
年齢	30歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.4～
出身地	福岡県福岡市
転出元	埼玉県戸田市
前職	小学校教諭

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

企業の立場から高校の学校改革のコンサルティング営業に携わる中で、義務教育段階において児童生徒のウェルビーイング実現に向けた教育改革の必要性を感じました。埼玉県戸田市において最先端の教育改革を学び、他自治体に波及させたいと考え、加賀市の公募に応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<学校伴走>

学校のニーズに応じて、市の学校教育ビジョンを実装する学校改革に伴走している。具体的には、自由進度学習、STEAMの観点を含めたPBL等の授業づくり、授業支援、授業の振り返り等の伴走を有識者と連携しながら行っている。



<学校教育ビジョン策定>

他の先進自治体や先進校の視察をコーディネートし、加賀市と愛知県の自治体や長野県の学校をつないだ。合わせて、教育委員会内で調整、ファシリテートしながら教育振興基本計画等のビジョンづくりを行っている。



<義務教育学校設置検討>

人口減少が続く地域で義務教育学校設置のための活動を行った。保護者、地域などに10回の説明会を開き、住民投票を経て今後も継続協議を行うことになっている。

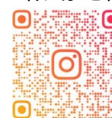
「中学校の義務教育学校化に関する調査」ご協力のお願い。

お礼申し上げます。また、ご清栄のこととお慶び申し上げます。学校及び「橋立中学校」の児童生徒数減少を受け、両校を「義務教育学校」に統合することで学校の魅力を高める取組が、保護者の方々をはじめとする地域の皆様への説明会では、不安や反対の声も聞かれました。どのような形が子どもたちにとって地域の皆様とともに考えてまいりたいと考えております。ご参考とさせていただきます。今後、両校の校区町内のご家庭に実施したいと、ご協力下さいますようお願いいたします。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：y.kobayashi@city.kaga.lg.jp

職場電話番号：0761-72-7970（加賀市教育委員会教育庶務課）



@education.kagacity  
Instagram



加賀市教育委員会  
facebook



ノウハウ

- 地域住民等との良好な関係構築スキル
- 前職経験を活かした政策デザインスキル
- その他、ライターとしてのスキル等

プロジェクト名	福井市地域コミュニティDX推進事業
年齢	35歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.12～
出身地	山形県米沢市
転出元	福井県福井市
活動経験	福井市地域おこし協力隊 (H27.10～H30.9)
前職	まちづくり会社 (株式会社akeru)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

- ・地域におけるDX推進は、地域住民とのコミュニケーションや地域内での合意形成が不可欠であり、地域おこし協力隊として活動してきた経験が活かせると感じていました。
- ・令和4年度のモデル地区が地域おこし協力隊時代の活動地区であったことから、円滑に事業を進めるために自身が適任と考え応募しました。

⑩ デジタル

○ 活動内容・取組成果

<スマホ教室の開催>

- ・福井市内全域にて、NTTドコモ、福井市シルバー人材センター、地元高校生等、様々な関係者と連携したスマホ教室を開催。
- ・延べ588人が教室を受講。



<デジタルサポーター養成講座の開催>

- ・デジタルデバイド解消のため、地域内の様々なシーンでスマホ等の使い方等の相談に乗ることのできるサポーター養成講座を開催。



<新たなデジタルデバイス導入の検討>

- ・地域内の防災体制強化に向けて、モデル地区における新たな防災用デジタルデバイス導入のための実証実験を企画検討。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：machi-m@city.fukui.lg.jp

職場電話番号：0776-20-5230



ノウハウ

- 首都圏旅行会社等の人的ネットワークを保有している
- 新規事業の開発およびマネタイズのノウハウを保有している
- WEBマーケティングの実務経験がある

プロジェクト名	観光地域づくり法人を中心とした村内観光産業活性化プロジェクト
年齢	60歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.11～
出身地	三重県いなべ市
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	丹波山村地域活性化起業人 (R4.4～R5.3)
前職	代表社員 (サードプレイス合同会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域活性化起業人として、令和4年度から丹波山村で活動してきた中で、丹波山村の課題である観光業での人手不足に対して、村全体での稼ぐ力の向上に向けた戦略策定や観光DXの推進による省人化を推進するため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<観光地域づくり法人登録の伴走支援>  
一般社団法人たばやま観光推進機構が観光地域づくり法人へ登録されることを目指し、地域プロジェクトマネージャーとして伴走支援を実施している。



<観光振興のためのプロジェクト立案>  
観光振興のため、デジタル技術を活用した観光産業の省人化や生産性向上のためのプロジェクトを企画推進している。



<特定地域づくり事業協同組合の設立>  
人手不足という深刻な村の課題に対して、特定地域づくり事業協同組合の設立に向け、行政と民間事業者のブリッジ的役割を担っている。また、令和6年度の稼働に向け、組織を構築している。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：souei@vill.tabayama.Yamanashi.jp

電話番号：0428-88-0211

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

活動報告書：

<https://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/gyousei/index.html>



ノウハウ

- ITインフラ全般の基礎知識(応用情報技術者の国家資格取得)
- プロモーション(Web広告の運用経験あり)
- プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネージャーの国家資格取得)

プロジェクト名	世界に冠たる山岳リゾートの実現
年齢	30歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.10.1～
出身地	熊本県熊本市
転出元	神奈川県横浜市
前職	ITエンジニア・企画経営 (東急株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2年前、北アルプスの表銀座ルート(燕岳→槍ヶ岳→上高地)の縦走をきっかけに登山に夢中になり、週1ペースで山行を継続しました。いつか山に関する仕事に就きたいと考えていたところ、同職の募集を見つけ、前職でのノウハウも活かせると考え応募に至りました。

○ 活動内容・取組成果

<松本-高山ロングトレイル開通準備>  
松本-高山を起終点とした全長115kmの歩く道=信飛トレイル。環境省、高山市、松本市、地域事業者が協働し開通準備を進める。中心メンバーとして、ルート設定、地域との調整、マップ作成、ガイド育成、モニターツアー開催を行う。



<トレイルイベントの開催>  
「MATSUMOTO TRAIL DAY」という信州のトレイルを盛り上げるイベントを初開催。企画の立ち上げ、PR、当日の運営等すべての実務をほぼ一人で担う。トークセッションは250名、イベント全体では1500名の方に来場いただいた。



<乗鞍ゼロカーボンラボの実施>  
日本初のゼロカーボンパーク乗鞍高原において、ゼロカーボンを学び、実験と実践を共有するコミュニティ型ラボを市の事業として立ち上げる。地域内外約50名の方が参加し、9プロジェクトが立ち上がる。事務局兼プロジェクトリーダーを担当。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：alpsresort@city.matsumoto.lg.jp

職場電話番号：0263-94-2307

(松本市総合戦略局アルプスリゾート整備本部)

ノウハウ

- 宿泊事業でのPR・マーケティング等の経験を活かし、地域資源の発掘・磨き上げを行い誘客促進に資する事業へつなげる
- 商品開発、デザイン業務に携わった経験を活かし、地域ブランディング事業の磨き上げを行い魅力あるまちづくり事業に貢献する



プロジェクト名	憩うまちこうみ事業
年齢	34歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	東京都葛飾区
転出元	東京都葛飾区
前職	コンサルタント (沿線まるごと株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

約6年前から、小海町と共に憩うまちこうみ事業を推進している株式会社さとゆめとJR東日本との共同出資会社である沿線まるごと株式会社は、山梨県小菅村で宿泊施設の立ち上げや運営を行っています。今回、憩うまちこうみ事業をさらに発展すべく、地域住民や協定企業、行政等の多様な関係者と共に円滑に事業を推進するために地域プロジェクトマネージャーに着任しました。これまでの職歴で培った経験（宿泊事業におけるPR・マーケティング、サービス、SPA業での商品開発、デザイン等）を活かし、拠点施設の改修計画に従事する予定です。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

- <憩うまちこうみ事業>
- ・小海町で推進してきた「Re・Designセラピー」の新たなプログラム開発
  - ・都市部企業との新たな関係人口構築の営業活動や健康経営のお手伝い
- ⇒協定後、町内のプログラム利用の推進  
⇒協定企業や関係人口になった企業との新たなプログラム内容の検討



- <憩うまちこうみ事業>
- ・BtoBで進めてきた事業の拡大化のためtoC向けの取組を開始
- ⇒町内美術館とコラボした個人向けツアーの実施、関係人口増に貢献  
⇒新たな担い手の育成  
(森林セラピスト、飲食店講習など)



- <ゼロカーボン推進>
- 令和4年3月に表明したゼロカーボン構想に基づくまちづくりを推進
  - ・企業版ふるさと納税を活用したEV車導入に向けた取組における行政と企業の橋渡し
  - ・町内関係者や協定企業と共にゼロカーボンワーケーション推進協議会の運営



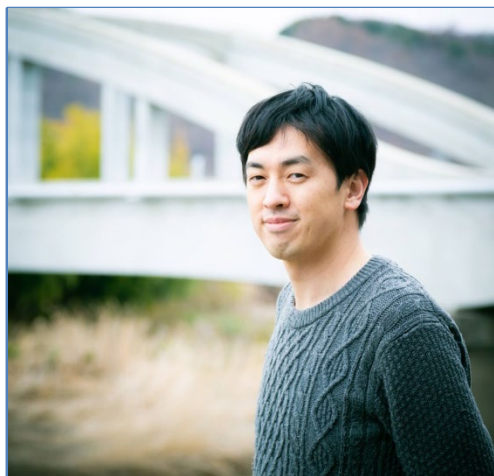
【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ikoumachi-koumi@koumi-town.jp  
職場電話番号：0267-92-2525

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<http://ikoumachi-koumi.jp>





ノウハウ

- ファシリテーター
- コーディネーター
- 映像制作

プロジェクト名	コミュニティつながりプロジェクト
年齢	39歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4~
出身地	埼玉県川口市
転出元	埼玉県川口市
活動経験	佐久穂町地域おこし協力隊 (H30.5~R3.4)
前職	会社員 (株式会社デジタルSKIPステーション)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

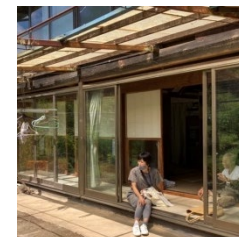
移住の一番の原動力は、コミュニティの未来について真剣に向き合いたいという思いでした。協力隊として町のコミュニティを学べば学ぶほど豊かで奥が深い一方で、今は転換期にあると感じていました。町はコミュニティ創生を重点施策として謳っており、共感する部分が多いと感じました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<集落の話の聴き手事業>

まちの重点政策の一つである集落コミュニティ支援事業。集落支援員を集落の話の聴き手として町が委嘱し (R5は8名)、そのマネジメントを行っている。ライフスタイルの変化やコロナ禍により伝承されにくいアイデンティティを次世代に渡す。



<若手つながるプロジェクト>

隣接する小海町と共同で行っている人材育成事業。学びの場に加えて、年次ごとにアレンジしたチーム学習導入により、職員の力量形成だけでなく、町内外との良質な関係性の構築を目指している。



<佐久穂町地方創生推進会議>

町の地方創生戦略は「コミュニティ」を重視した「佐久穂町コミュニティ創生戦略」として2期目を迎えているが、当会議の会長として議論をリードし、かつ全体のコーディネート/ファシリテートも担うなど、縦横に取り組んでいる。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: [seisaku@town.sakuho.nagano.jp](mailto:seisaku@town.sakuho.nagano.jp)

職場電話番号: 0267-86-2525



ノウハウ

- 旅行業界の知識を活用した観光推進組織の人材育成
- 旅行商品開発による地域への誘客事業
- 業界関係者及び地域事業者との関係構築

プロジェクト名	下諏訪町観光振興計画の実践しもすわの感動と賑わいを創生
年齢	35歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.4.1～
出身地	神奈川県川崎市
転出元	東京都世田谷区
前職	旅行商品造成・予算執行等 (クラブツーリズム株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域に移り住むからこそ、より踏み込んで関わり、伝えられる地域の魅力があると考えました。外の視点を持ったうえで魅力的な観光情報を発信することが地域貢献につながると考え、観光において大いに伸びしろがある下諏訪町の地域プロジェクトマネージャーに応募いたしました。

○ 活動内容・取組成果

< 旅行商品開発事業 >

町の重要プロジェクトである下諏訪町観光振興計画を実践する組織として、地域で稼ぐ観光を推進しています。

下記収入額の約7割が地域循環する仕組みづくりと事業拡大に取り組んでいます。  
[事業収入]

R3:410万円 R4:913万円 R5見込:1,500万円



< 町内事業者、周辺地域との連携事業 >

ブリッジ人材として地域の事業者との関係構築に取り組んでいます。

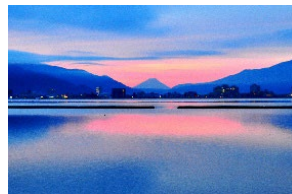
開発した旅行商品に事業者を誘致したり、相互理解による地域事業者との観光地域づくりを行ったりすることで、持続可能な観光を実践しています。



< 水の里の旅コンテスト最優秀賞受賞 >

国土交通省主催の旅の企画コンテストにおいて最優秀賞を受賞。

外部評価を高めることを通じ、地域のブランディング、事業推進への地域理解の醸成、体制の基盤整備と強化を行うことで、地域の観光を推進する組織を目指します。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：k-inoue@shimosuwa.or.jp

職場電話番号：0266-27-1800

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://shimosuwaonsen.jp/>





ノウハウ

- プロジェクトマネジメント
- ITシステム設計/開発
- 業務効率化
- 人材育成/組織開発
- キャリア設計開発
- キャリアコンサルティング
- 転職支援
- 国家資格キャリアコンサルティング技能士2級
- 国家資格キャリアコンサルタント
- 産業カウンセラー

プロジェクト名	辰野町DX推進プロジェクト 辰野町明るい職場づくりプロジェクト
年齢	57歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.7~
出身地	東京都足立区
転出元	東京都新宿区
活動経験	辰野町地域活性化起業人 (R2.7~R5.6)
前職	人材サービス (株式会社パソナ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年7月より辰野町地域活性化起業人(旧地域おこし企業人)として辰野町の課題解決に取り組んできましたが、特にDXに関する知見と経験を町より求められ、今回、辰野町地域プロジェクトマネージャーとなりました。

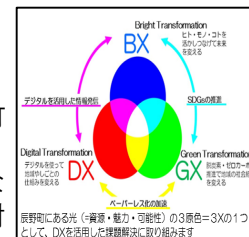
⑩ デジタル

○ 活動内容・取組成果

<辰野町DX推進プロジェクト>

①プロジェクト推進

「辰野町DX戦略(ビジョン)」ならびに「アクションプラン」に基づき、辰野町DX推進プロジェクトの運営管理を実施。各種行政手続き業務のデジタル化の企画ならびにタスク・スケジュール管理、業者対応も実施。



②認識共有・機運醸成、DX関連研修

辰野町役場職員に対するDXの認識共有・機運醸成に関するDX基本研修、生成AI研修などのDX関連講座の企画・設計・講師や、地域住民に対するデジタルデバインド解消のためのスマホ講座等の企画・設計・講師を担当。



<辰野町明るい職場づくりプロジェクト>

辰野町役場、町内企業に対する人材育成支援として、育成方針の策定から階層別研修・各種人材育成に関する課題に合わせた研修の設計、企画と講師、効果測定を支援。また、組織開発にかかわる各種課題解決を支援。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: keiei-k@town.tatsuno.lg.jp

電話番号: 0266-41-1111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

[https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/choseijoho/shisaku\\_keiku/dx/2793.html](https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/choseijoho/shisaku_keiku/dx/2793.html)



ノウハウ

- ソフトウェア開発
- IT機器の操作・管理
- プロジェクト管理



プロジェクト名	朝日村DX推進プロジェクト
年齢	51歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	長野県山ノ内町
転出元	長野県安曇野市
前職	ソフトウェア開発 (富士通株式会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職を2022年3月に退職（早期退職制度に応募）し、じっくり取り組める仕事を探していたところ、偶然本職の求人に出会いました。前職の経験が地域社会の貢献に役立てることができるのではと考え、応募をしました。

○ 活動内容・取組成果

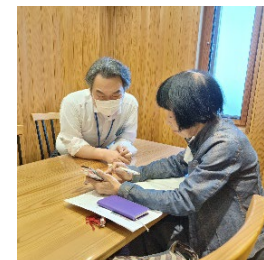
<デジタルよろず相談室>  
 (デジタルデバйд対策)  
 週に半日、スマホ等に関する個別の住民相談室を開催（予約制、出張あり）。  
 相談実績：4件/月程度



<窓口キャッシュレス化検討>  
 キャッシュレス決済導入に向けた検討。現在、先行調査として、ベンダ別機能、業務手順への影響等を調査中。



<マイナポイント申請支援>  
 窓口でポイント申請の支援を実施。申請以外に、キャッシュレスサービス未利用者のサービス選定等関連相談も対応。  
 支援実績：10件/月程度



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：dxsuisin@vill.asahi.nagano.jp

職場電話番号：0263-99-4107

(朝日村役場企画財政課企画・DX推進係)



ノウハウ

- 行政コンサルティング
- スポーツ庁入庁（官民人事交流制度）
- ビジネスコーチング資格取得

プロジェクト名	野沢温泉村における観光産業の振興プロジェクト
年齢	40歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.10～
出身地	山梨県甲府市
転出元	東京都中野区
前職	(株)日本総合研究所

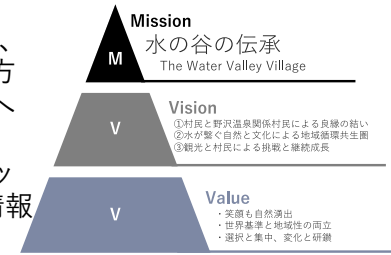
○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

3年ほど前から、野沢温泉村に定期的に滞在するようになり、村の持つ地域資本高いポテンシャルを感じています。学生時代から地域まちづくりの分野で活動を行っており、日本全国の地方公共団体に伺い多くの地域をみて、またプロジェクトに携わってきましたが、それらのどの地方公共団体よりも、この村の持つポテンシャルの高さは際立って感じます。特に、自然資本、文化資本、人的資本に対する独自性が高く、ただのスキーリゾート、ただの温泉街ではない、多様な魅力をもつ人材により一つの独自性を持った地域として地域資本が存在していると感じます。現在、日本では、少子高齢化を中心として財政難等の局面を向え、地方創生が強く求められています。国内のどの地域よりも野沢温泉村での可能性を感じたため、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<DMOの立ち上げ支援>

- ・DMOのミッション、ビジョン、バリューを中心とした、活動方針や事業内容の関係者や村民への理解促進
- ・地区別の説明会やワークショップの開催、CATVや資料での情報発信等の実施



<ガストロノミー推進>

- ・地域食文化の発展のため、村シェフを中心とした研究プロジェクトとしてガストロノミーラボの設立を支援
- ・ラボによるコース構築と、富裕層向けのガストロノミーツアー造成、モニタリングツアーの実施を支援



<100周年記念カード販売>

- ・野沢温泉スキー場の開業100周年を記念したカードの販売を支援
- ・関係村民の創出を目的に、村内事業者と連携した取組を支援
- ・チャージ型リフト券として販売することで、環境への配慮や利便性の向上を検討



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：shoko@vill.nozawaonsen.nagano.jp

職場電話番号：0269-85-3114



ノウハウ

- NPO法人薬草で飛騨を元気にする会の薬草講座上級に合格し、薬草コンシェルジュの資格を有する
- 薬草ティーセレモニーなどの体験のコーディネート

プロジェクト名	飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト
年齢	39歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.11～
出身地	愛媛県松山市
転出元	千葉県浦安市
活動経験	飛騨市地域おこし協力隊 (H30.10～R3.9)
前職	店舗勤務 ((株)ユニバーサル園芸社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

飛騨市で地域おこし協力隊として3年間、薬草ビレッジ構想推進プロジェクトに関わり、薬草拠点施設のオープンや薬草フェスティバルの開催など、多くの事業に関わってきましたが、地元の市民への普及については、まだやれることが多くあり、もう一踏ん張りしたいと考え、プロジェクトマネージャーに応募しました。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<薬草週間の開催>  
市内入浴施設5カ所と連携した薬草普及イベント「薬草週間」を定期的に開催。無関心層の市民への普及に寄与しました。



<薬草フェスティバルの拡充>  
薬草普及を目的として市で毎年開催しているフェスティバルについて、規模の拡充に取り組みました。その結果、市内外より例年以上の団体が参加し、関係者同士の新たな交流も生まれました。



<草福連携事業の推進>  
薬草事業と障がい者自立支援施設との連携により、薬草を使った入浴パックの開発に挑戦。新たな薬草関連商品の創出に繋がりました。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hidayakusou@city.hida.lg.jp  
職場電話番号：0577-73-7463  
(飛騨市役所まちづくり観光課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<http://www.city-hida.jp/yakusou/>

ノウハウ



○ジェンダーや性の多様性について

プロジェクト名	多様性に関する意識啓発プロジェクト
年齢	26歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.3～
出身地	愛知県半田市
転出元	三重県津市
前職	会社員 (株式会社コメリ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

大学で社会福祉を専攻し、相談援助を主とした社会的マイノリティに対する支援について学びました。プライベートでは、性の多様性に関する講座等に定期的に参加するなど卒業後も知見を深めています。近年LGBTQに関する機運が高まってきた社会状況の変化を受け、培った知識や専門性を活かしたいと思い応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

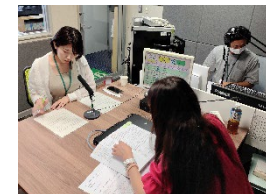
<性の多様性に関する職員ガイドラインの作成>

職員が最低限知っておきたい知識等をまとめたガイドラインを作成。作成にあたって関係所属にヒアリングを実施し、市の現状を内容に反映した。



<ラジオ番組による啓発活動>

コミュニティFMの行政情報番組にて、性の多様性やジェンダー平等に関する番組を開始。自身が出演し、パーソナリティとのやり取りを通じて、性の多様性の知識などを発信している。



<職員自主グループの設立・運営>

所属・担当を越えて、職員の性の多様性やジェンダー平等への意識を高めていくため、有志の職員グループを設立。月1回学習会を開き、日常生活の中や業務内での身近な話題などをテーマに、意見も交わしながら見識を深めている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：shiminkyodo@city.shimada.lg.jp

電話番号：0547-36-7121

島田市HP「多様な性のあり方への理解について」

<https://www.city.shimada.shizuoka.jp/gyoseidocs/137669122.html>



ノウハウ

- 大小20以上の社会貢献事業を関係機関等と協力し事業化した経験
- 全国1万人以上の若者世代とのネットワークと社会貢献事業における指導経験

プロジェクト名	移住促進と空き家活用プロジェクト
年齢	41歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	神奈川県川崎市
転出元	静岡県西伊豆町
活動経験	西伊豆町地域おこし協力隊 (R2.9～R5.8)
前職	団体役員 (特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

西伊豆町地域おこし協力隊として、移住者の起業支援や地域おこし協力隊の活動支援、地域活性化事業支援などに従事し、3年の任期満了後、地域プロジェクトマネージャーに就任しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<お試し移住住宅運営の支援>  
 お試し移住住宅の予約について、従来の先着順から、申請書を審査し移住の実現性を判断した上で決定する方法に変更。またPR資料について、より分かりやすい内容に刷新。



<移住希望者の発掘とデータ化>  
 イベント出展や問い合わせ対応だけでなく、自身のネットワークを活用し、移住希望者の発掘も実施。また、相談情報の管理を紙媒体からクラウドでのデータ管理に移行。  
 移住相談対応件数9件 (R5.12～R6.1)

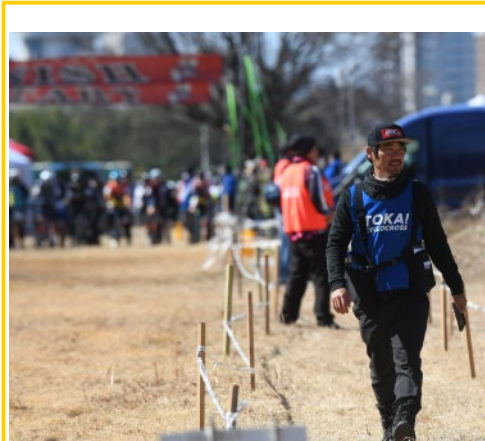
【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：takai@nishi-iju.com

職場電話番号：0558-52-1966

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

現在準備中：令和6年4月～SNSでの発信予定



ノウハウ

- スポーツバイクやアウトドアスポーツでまちおこし
- 市外・県外へ新城市の価値を発信
- 地域と市外企業とのコーディネート

プロジェクト名	サイクルツーリズムを中核としたスポーツツーリズムの推進
年齢	47歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4~
出身地	愛知県西尾市
転出元	愛知県名古屋市
活動経験	新城市地域おこし協力隊 (R1.5~R4.3)
前職	アパレル (株式会社CLT)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として約3年間活動し、スポーツバイクの活用をきっかけに地域との関係性、信頼性を築き上げてきました。

地域おこし協力隊としての活動は、まさにスタートラインに立った状態であり、新城市に価値を感じてくださる企業や団体と協力してアウトドアスポーツをきっかけに、より良いまちにしていきたいと考えたからです。

⑫ スポーツ

○ 活動内容・取組成果

<プロロードレースチームとの交流>  
 昨年に引き続き、自転車ロードレースの認知、普及促進のため、愛三工業レーシングチーム (UCI登録名:AISAN Racing Team) を招き、ファン交流会を愛知県民の森で開催しました。



<至学館大学 人間力総合演習>  
 至学館大学の「人間力総合演習」の授業を活用し、アウトドアスポーツを通して新城市における地域課題を解決していく。課題解決をしながら新城市のファンを増やす活動を行う。



<自転車イベントの開催>  
 地域を巻き込んだ自転車イベントを開催。3年かけて造成したマウンテンバイクフィールドを活用し、自転車イベントだけでなく、マルシェなどを併催し、関係人口を増やす活動を積極的に行う。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: tomoya.8sk@gmail.com

職場電話番号: 0536-23-7621

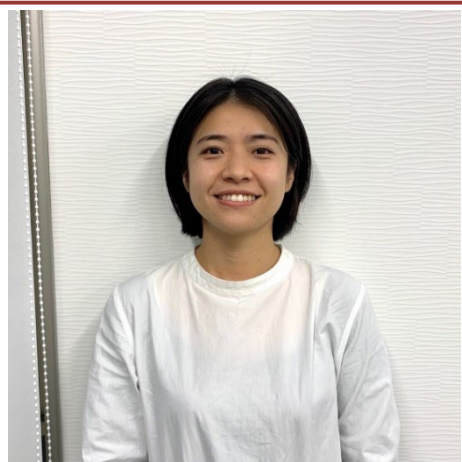
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://hatch76.hateblo.jp/>



ノウハウ

- 甲賀市を代表する地場産業である信楽焼の産地「信楽町」での人脈
- デザインやアートへの知識と理解
- 展示用のパネルなど展示物の制作技術



プロジェクト名	2025年大阪・関西万博に向けたブランド発信支援事業
年齢	29歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	鹿児島県湧水町
転出元	京都府京都市
活動経験	甲賀市地域おこし協力隊 (H28.4～H31.3)
前職	イベントコーディネーター (甲賀市役所)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

滋賀県甲賀市信楽町における地域おこし協力隊、前職である地域イベントコーディネーターを経て、将来的に信楽町の産業を活性化させていくことを考えたときに、より広い視野で産業の取組を見るべきだと考え、甲賀市（商工労政課）が募集していた地域ブランドコーディネーターに応募しました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<コウカEXP02023>

主に地場産品の振興・周知を企画担当し、展示品の借用や展示に必要なスケジュールリングを実施した。また、関連事業の主催団体との調整も行った。



<地域ブランド展開支援事業>

委託している業者・プロデューサー等との事業進行の調整や、事業展開に向けた地域団体・参画事業者の対応・準備等を行った。



<六古窯日本遺産魅力増進事業>

文化庁補助を受け、6産地の主要プレイヤーの連携構築と地域内外の事業者との連携構築に向けた、産地への事業周知や事業展開に向けた窯元等への説明を行った。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：koka10351000@city.koka.lg.jp

職場電話番号：0748-69-2187

(甲賀市役所 商工労政課)



ノウハウ

- 多様な立場・背景を有する個人や組織の方針への理解・共感力
- 唯一解がない中で最適解を導きつつ、全方位に異なる意見を聴き続ける粘り強さとバランス感覚
- サービス産業経験を通じて培ったコミュニケーション力

プロジェクト名	地域共生社会構築プロジェクト
年齢	54歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.2～
出身地	千葉県旭市
転出元	東京都大田区
前職	経営者・役員 ((株)コープトラベル)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

加速度的に進む人口減少と地域の過疎化に強い危機感を抱く中で、奈良市東部の地域共生社会実現の構想に共感しました。自身が地域に身を置き活動する事で、住民の方々の実感としての課題感や将来への想いをくみ取ると同時に、外部パートナーや行政の社会投資・政策との連携を果たすことで、持続的に幸福感を得られる地域社会づくりに貢献したいと考えたため、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<地域課題可視化に必要な地域住民との関係性構築>

令和4年3月10日オープンの月ヶ瀬ワーケーションルーム「ONOONO」を基点に、多様な世代の地域住民との接点を拡大するとともに、地域外の方々との交流の場も創出。



<地域特性に応じた地域課題解決策の検討・調整>

令和4年度、無作為抽出の地域住民(奈良市東部地域全体)対象の「自分ごと化会議(全4回)」を開催。「共助・コミュニティ」強化の仕組みづくりや公共交通・物流課題の解決を議論。



<持続的な地域課題解決のためのシステム構築>

令和4年度の「自分ごと化会議」などを踏まえ、令和5年4月設立の地域の共助組織「Local Coop大和高原」による共助型サービススキーム・組織・ファイナンス面の検討及び関係者調整。

【メディア等の取材連絡先】

電話番号：0743-99-2179

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

月ヶ瀬ワーケーションルーム「ONOONO」

<https://onoono-nara.jp>



ノウハウ

- 事業経験を活かした  
村農林業の活性化推進
- 協力隊時代に築いた  
ネットワークの応用
- ブリッジ人材として  
関係機関・関係者の  
つなぎ役に



プロジェクト名	農林業公社を核とした農林業の強化支援
年齢	48歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	神奈川県横浜市
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	曽爾村地域おこし協力隊 (R1.6～R4.5)
前職	NPO法人 (ジャパンハート)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

曽爾村地域おこし協力隊での3年間の活動を通して取り組んだ農林業振興に関する取組を土台に、農林業公社での事業企画やマネジメント業務を中心に、村の農林業活性化を総合的に進めていく人材となるよう務めたいと考え、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

< 農業活性化 >

曽爾村の耕作放棄地の拡大防止に加え、特産である米、トマト、ほうれん草のブランド化のほか、新産地形成による付加価値の高い農業を推進する。



< 林業活性化 >

森林組合等とも連携し、製材所を活用した曽爾村産材を使った商品開発・製造により林業の付加価値化を目指す。



< 曽爾村農林業公社等の体制整備 >

地域農林業活性化の中核となる一般社団法人、森林組合等重要セクターの体制整備・人材育成に取り組む。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@vill.soni.lg.jp

(曽爾村役場企画課)



ノウハウ

- 対話を用いた場のデザイン
- 農山村文化×移住・定住、関係人口の創出
- 環境問題、土壌に関する知識

プロジェクト名	信太地区振興協議会事業
年齢	26歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7～
出身地	熊本県熊本市
転出元	熊本県熊本市
前職	人材研修、地方創生業 (株式会社パソナグループ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

日本の自然環境・食の問題に危機感を抱き、人が住むことで自然環境を破壊するのではなく、再生できる暮らし(パーマカルチャー・オフグリッド)を創る為に橋本市への移住を決意しました。2拠点生活をしながら移住準備を進める中で、地域の過疎化や地域の方の文化を受け継ぎたいという想いを知り、自分の暮らしのみではなく地域全体の自然環境・人の暮らしを守り、良くしたいという想いでプロジェクトマネージャーに応募しました。

① 移住・定住促進

○ 活動内容・取組成果

<話し合いの場づくり、地域への周知>  
月1回、地域住民(20～50代)と行政事務局で行っている活性化の会議、年4回行う区長等への報告会議のファシリテーションを行っている。社会動向を先読みしつつ、地域内の声を活性化に反映させることで地域住民の主体性を引き出す。また、地域への広報として月1回新聞を発行。



<地域イベントの開催>  
活性化の土壌の無い地域に対しての意識付けの為に、地域内の魅力を掘り起こす為の地域イベントを令和4年度末より5回実施。総計86名の参加。また、移住希望者向けの小規模イベントを2回実施し、各イベントに3組の応募があり、その内1組が移住をきめた。



<地域冊子の作製>  
移住・定住、関係人口の創出を目的とした、地域の冊子を作製。デザイナーとして、地域在住の移住者を起用。3名の地域外写真家と地元住民が撮影した写真を織り交ぜた、アート性の強い冊子となり、写真家自体も地域の関係人口に繋がる。写真はカメラマンと地元住民、移住者の交流の様子。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: [mao.kataoka@city.hashimoto.lg.jp](mailto:mao.kataoka@city.hashimoto.lg.jp)

職場電話番号: 0736-33-6113



ノウハウ

- 旅行業関連  
【営業、オペレーション、企画、添乗、人事等】
- 観光協会、DMO関連
- 農泊関連
- スポーツ、アウトドア関連  
【スキー資格】

プロジェクト名	持続可能な観光地域づくりの実施体制の確立
年齢	56歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	東京都
転出元	千葉県市川市
前職	旅行業

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの旅行会社や観光協会等の勤務経験、ノウハウを活かし、微力ながら観光振興のお手伝いをさせていただきました。今年4月の正式赴任前までは、東京、鹿児島等での前職との掛け持ちでしたが、ようやく専任できる準備が整い、満を持して応募し、採用していただきました。

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

<活動内容>

主に由良町観光協会の事務局としての業務にあたる。  
「地域の総力戦」をテーマに、それぞれの地域に眠る文化、歴史、しきり、食の特性などの土地ごとの生活文化を、着地型観光として提供し、由良町内での滞在時間を拡大させながら、地域の人々と来訪者が交流を深め、ご当地を大好きになってもらうことで、「交流人口」以上の「関係人口」へと進化させていくことを目指す。  
「体験」「滞在」「交流」という3つのキーワードで、どのように地域の良さを来訪者に伝えるか、地域全体（由良町）で、そのメニューが構築できればと考えている。

<取組成果>

由良町観光協会の令和5年度の事業内容・収支予算（案）の策定にあたり、事業内容や予算関係等を精査・調整し、役員会・総会に向け、資料を作成・準備した。  
役員会：令和5年5月8日  
通常総会：令和5年5月26日

<取組成果>

- ①和歌山県観光交流課環境づくり班主催の教育旅行誘致活動である、スクールキャラバン2本に参加。
- ②和歌山県観光交流課海外誘客班主催の台湾市場における現地プロモーションへ参加。  
「体験」「滞在」「交流」の観点からの営業活動・情報収集等により、今後の由良町としての作戦を練る参考になった。今後は、由良町として単独の営業活動も視野に入れ、検討・調整等を行っていきたい。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：yura.ikehara@gmail.com

電話番号：0738-65-3852



## ノウハウ

○農業振興・林業振興  
農業生産管理経験（協力隊時）  
森林経営等制度運用（前職）

○移住支援・連携事業  
いなば移住支援ミーティング  
鳥取メディア研究部

○空き家活用・起業  
一般社団法人ワノクニ（休業）  
拠点系事業複数経験

プロジェクト名	第2期八頭町総合戦略地域別活動促進プロジェクト
年齢	37歳（R5.4.1時点）
活動時期	R3.6～
出身地	岡山県倉敷市
転出元	東京都荒川区
活動経験	八頭町地域おこし協力隊 (H24.4～H27.3)
前職	特別職（新たな森林管理システム推進センター）

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊当時から、右記協議会におけるプロジェクトマネジメント人材及びその予算確保の必要性を訴えていましたが、具体的な解決策が無く保留となっていました。地域プロジェクトマネージャー制度が、協議会にとっての解決策や自治体としての地域への協力となり得ると判断され、その公募が開始されたことに伴い応募をしました。

## ⑦ 農業・林業

### ○ 活動内容・取組成果

- <ふなおか共生の里づくり推進協議会 運営支援>
- ・合併前三町の1つである船岡地域での企業連携を主とした協議会の運営支援
  - ・活動内容の整理や活動計画の作成から個別企画や運営を実施
  - ・R3年度 ディスカバー農山漁村の宝受賞



- <農山村アルバイト企画・広報・運営>
- ・船岡地域における農作業や景観保全活動の担い手確保、関係人口の創出や学生への地域経験の機会づくりを目的としたギグワーク事業の企画・広報・運営
  - ・R4年度 4ヶ月で延べ300人日超参加



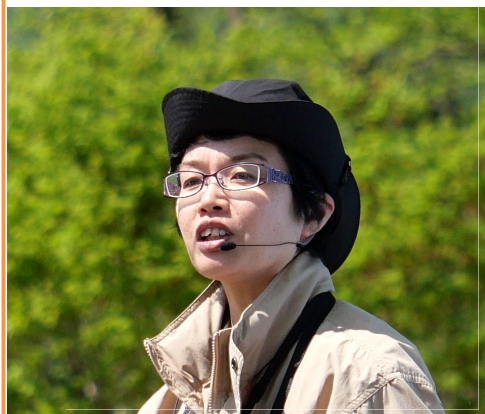
- <特定地域づくり事業協同組合設立準備>
- ・船岡地域における活動の担い手確保や地域おこし協力隊など移住者の受け皿づくりを目的とした特定地域づくり事業協同組合の設立準備
  - ・R5年度 設立要件・書類整備
  - ・R6年度 稼働開始予定

### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：sangyou-kankou@town.yazu.tottori.jp

職場電話番号：0858-76-0208

（八頭町役場産業観光課）



ノウハウ

- 作業療法士
- イベント企画司会
- フィールドワーク

プロジェクト名	江府町SDGs未来都市計画プロジェクト
年齢	45歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	岡山県岡山市
転出元	岡山県岡山市
前職	作業療法士 (新庄村社会福祉協議会)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

海外では、青年海外協力隊としてマレーシアのボルネオ島で活動、また、国際災害支援としてインドネシアで活動していた経験があり、国内では、持続可能な地域活性化事業などに関わっていました。福祉分野だけでなく、幅広く地域の人と関わり、自分の出来ることで世界を平和にしていきたいと強く願っていました。そんな中、江府町のSDGs推進地域プロジェクトマネージャーの募集を知り応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<奥大山自然塾>

水の町江府町がSDGsの軸として重要なプロジェクト。本校である富良野自然塾副塾長との調整を行ったほか、自らもインストラクターとして活動。R5年5月の開校へと繋がった。



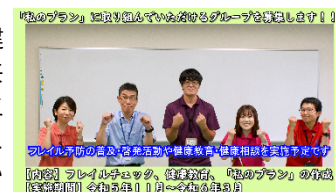
<SDGsワークショップ・授業・講演>

こどもリサイクルマーケットをはじめ、小学校でのSDGs授業、国際交流体験、高齢者学園への講演を行い、SDGsの普及を実施。



<福祉事業>

鳥取県介護予防支援員や江府町保健師、役場勤務動画担当、地域住民と共同で動画を作成し、フレイル予防や生きがいをもって生活できる方法を伝えている。動画は各市町村に拡散している。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hiromikoushima@town-kofu.jp

職場電話番号：0859-75-2211





ノウハウ

○企業での人材派遣及び人材育成のノウハウ

プロジェクト名	大人の島留学プロジェクト
年齢	39歳（R5.4.1時点）
活動時期	R3.7～
出身地	大阪府箕面市
転出元	大阪府箕面市
前職	社会人の教育事業、旅行事業、採用業務等（株）リクルート

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

都市部で人材派遣や人材育成に関連する仕事をしていたが、地方における教育や人づくり、地方創生に関わる仕事がしたいと考えており、海士町の募集を見て自身のスキルを活かした活動ができると感じ、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<島留学・島体験生への研修>  
 ・大人の島留学・島体験生への研修の設計・運営を行った。  
 ・定期的に個別面談を行い、現在の状況を把握しながら、研修プログラムを作成。島留学生、島体験生と事業所の間に立ち、地域側と移住者側のニーズのバランスをとる役割を果たしている。



<受け入れ事業所調整>  
 大人の島留学生等を受け入れる事業所との定期的な面談を行い、現状や課題点などを共有。  
 島内事業所の課題や現状の言語化をすることにより、還流人材を受け入れ、育てる土壌を作り上げている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：aoyama-tatsuya@town.ama.shimane.jp  
 職場電話番号：08514-2-2446（海士町役場還流促進特命担当）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://otona-shimaryugaku.jp/>  
<https://note.com/otonashima/>



ノウハウ

- フリースクール運営
- 笠岡諸島で地域おこし協力隊として住民と連携して事業実施
- 飛島自治振興会会長の経験

プロジェクト名 笠岡市教育力向上プロジェクト

年齢 52歳 (R5.4.1時点)

活動時期 R4.4.1～

出身地 岡山県岡山市

転出元 岡山県岡山市

活動経験 笠岡市地域おこし協力隊 (H30.5～R3.4)

前職 学校法人事務局長 (学校法人興譲館)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

離島留学はすべての子どもたちが健全に育まれるための新しい環境とシステムの構築であり、そのことが笠岡市の未来を担う人材の育成に繋がるものであると感じ、私の経験とスキルを活かしたいと思い応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<笠岡市の教育改革に関わる業務>  
離島留学推進のための準備組織の設立、  
連絡調整・広報業務 など



<長期欠席、不登校の児童生徒に関わる業務>  
総合教育相談支援センター等と連携した相談室の解説や体験イベントの開催 など



<市内高等学校の連携推進>  
市内県立高校魅力化推進、総合的な探求の時間支援 など



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：gakkoukyouiku@city.kasaoka.lg.jp

職場電話番号：0865-69-2152

(笠岡市教育委員会学校教育課教育改革推進室)

ノウハウ

- 企画
- 異業種との連携
- コミュニケーション力



プロジェクト名	地域の稼ぐ力の向上
年齢	68歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.4～
出身地	愛媛県今治市
転出元	兵庫県神戸市
前職	公務員（神戸公共職業安定所）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでの経験や知見を生かして、令和4年4月にオープンした旧吹屋小学校をはじめ、日本遺産に認定された吹屋の観光振興を積極的に推進し、観光を通じた「地域の稼ぐ力の向上」に寄与することに関心を持ったため、応募しました。（前々職：全日本空輸株式会社）

③ 観光・情報発信

○ 活動内容・取組成果

- <旧吹屋小学校の管理・運営>
- ・組織強化
  - ・人材育成
  - ・関係者との連絡調整
  - ・イベント企画・運営



- <重要プロジェクトに関わる活動>
- 備中松山城との2大観光施設としての認知度向上を図り、市内周遊ルートの設定による来訪者の回遊を促進し、賑わいあるまちづくりを進めた。



- <具体的成果について>
- 開校2年目における新たな取組として、老若男女が楽しめる水鉄砲を使ってウォーターバトルを繰り広げる「ウォーターサバゲー」を実施し、多くの市民が参加され、各メディアにも取り上げられてさらなる認知度向上に寄与した。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kanko@city.takahashi.lg.jp  
 職場電話番号：0866-21-0217（高梁市観光課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

fukiya-japan.red



ノウハウ

- 前職で築いた人脈
- 営業本部在籍時に培った市場分析力
- CSR在籍時に身に付けた社会的課題解決力



○ 活動内容・取組成果

- <「新庄村」産農産物の有効活用>
- ・「新庄村」産コメを使った防災食の開発（テスト製造中）
  - ・就労継続支援B型事業所との連携の継続化

- <隠れた農産物の掘り起こしと新商品の開発>
- ・渋柿の干し柿以外の活用（ジャムやフルーツシロップなどの、開発）

- <自生する山野草の活用>
- ・山に自生する「くず」の活用  
「くず」の花を使ったフレーバーシロップの開発とそれを使用した「ダーティソーダ」の開発（令和6年7月発売予定）

プロジェクト名	新庄村6次産業活性化
年齢	60歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.9～
出身地	福島県いわき市
転出元	神奈川県横浜市
前職	営業、広報・CSR（キューピー(株)）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職のCSR担当時に、地方の活性化のために活躍する方々とお話の機会を多く得ました。在職時は、地方と企業を結ぶ仕事なども致しましたが、それよりは、自分が村起こしの活動をしながら企業を巻き込む方が、やりがいがあると考え、定年を機に応募致しました。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：k-ushigome@m-plaza.jp

電話番号：0867-56-2908



ノウハウ

- 地域における学習資源の発掘およびプロジェクト化
- アイデア出し、ヒアリングのバランスをとった本質的ファシリテーション
- 子ども～大学生の自己実現プログラム

プロジェクト名	教育環境構築事業プロジェクト
年齢	35歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.4～
出身地	埼玉県川越市
転出元	埼玉県川越市
活動経験 ※地域おこし協力隊	山形県遊佐町(H27.4～H30.3) 沖縄県久米島町(H30.4～R2.3)
前職	コミュニティオーガナイザー (自営)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として地域の中で行う教育に携わってきました。その土地の魅力や課題を資源とした教育によって、子どもたちの自己実現をサポートしながら、座学では伝えにくい技術・知識・あり方を教えられると考えていました。その折、知人から求人者の紹介を受け、西粟倉村で自分のキャリアを活かしながら地域に貢献できると思い、担当者の方の熱い想いも後押しになり応募しました。

○ 活動内容・取組成果

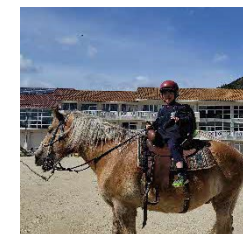
<幼稚園、小学校、中学校での地域教育の一貫化、拡充>

教育コーディネーターとして、地域の学校園と連携・協力しながら地域学習の魅力化を図った。R3・R4年度には、幼稚園から中学校までそれぞれ40以上の地域学習に関わり、地域へのつながりを強めた。



<村内児童生徒の自己実現支援>

子どもたちの「やってみたい!」を叶えるサポートを行なった。10イベントおよび4プロジェクトを実現した。村外からの講師も招きながら、子どもたち、大人の世界を広げた(写真は馬で登校を叶えたときのもの)。



<子どもの居場所事業(学習センター構想)推進>

第三の居場所事業に応募し、日本財団の助成の採択を受けた。村所有施設の改築を行い、R6.3月から本格的に子どもたちの居場所かつ学習の拠点が開設する予定。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: fukuoka@nest-n.org 電話番号: 0868-79-2216

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

Facebook: <https://www.facebook.com/nest.nishiwakura/>

Instagram: <https://www.instagram.com/nest.nishiwakura/>

教育移住窓口: <https://nishiwakura-iju-edu.net/>



ノウハウ

- ばらに関する専門的知見を有し、園芸業界に精通
- 国内外のばらの専門家や企業・団体等とのネットワーク

プロジェクト名	SDGs × 持続可能なばらのまちづくり推進プロジェクト
年齢	67歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7～
出身地	滋賀県秦荘町 (現：愛荘町)
転出元	岐阜県各務原市
前職	岐阜県立国際園芸アカデミー学長

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

福山市には、全市をあげてのばらへの取組やその歴史に先駆的なものがあり、数年前から現地に足を運ぶとともに関係者との交流を行ってきました。世界バラ会連合が主催する大会には、2006年の大阪大会に参加・発表するなど、海外のばら愛好家との交流を図ってきました。これまでの経験を活かしながら、ばらに関わってきた経験の集大成として、2025年の福山大会を成功裏に開催できることに尽くしたい一心と、ばらのまち福山をより磨き上げたいという思いから応募に至りました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<ばらの植栽デザイン計画とばらの新品種国際コンテストへの参画>  
2025年に福山市で開催される世界バラ会議に向けて、市内のばら園の改修が進行中。その植栽デザイン計画チームに参画し、実際に植栽する品種選定へのアドバイスを逐次行っている。また、大会記念ばらの選定に関わる「ばらの新品種国際コンテスト」を主導している。



<第19回世界バラ会議等への参加>  
2025年に福山市で開催される第20回世界バラ会議の前大会、オーストラリアアデレード大会 (2022.10～11開催) に出席したり、地域大会であるブリュッセル大会 (2023.6開催) でプレゼンを行った。また、パリ・バガテル国際バラコンテストで審査を行うなど、福山大会に向けた情報収集を行うとともに、海外のばら愛好家との人的交流を図っている。



<ばら愛好市民団体との交流及び講義>  
福山市主催の「ばら大学」や、ばら愛好団体が行う市民向けのばら講座に加わり、専門的なアドバイスをを行うとともに、市民との積極的な交流を行っている。また、市内小学校に赴き、小学生を対象にばらに関する授業も行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：

world-rose-convention@city.fukuyama.hiroshima.jp

職場電話番号：084-928-1210



ノウハウ

- 公益財団法人東京都交響楽団の元首席チェロ奏者であり、コンクール等における各種表彰の受賞歴や著名なアーティストとの共演などを通じた幅広い人脈を持つ
- 霧島国際音楽祭の企画運営委員を務めるなど、企画運営における実績を持つ

プロジェクト名	防府市音楽のまち創造プロデューサー事業
年齢	63歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.4～
出身地	山口県防府市
転出元	東京都板橋区
前職	チェロ奏者 ((公財)東京都交響楽団)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

これまでに年80回のコンサートに出演する中で、国内外問わず、多くの場所に訪れ、多くの文化に触れてきました。その経験を活かし、音楽を通して、ふるさと防府の文化振興や地域活性化に努めていきたいと思いました。また、「音楽のまち防府」を全国に発信し、音楽を通じた交流を深め、次世代の育成にも努めていきたいと思い、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<魅力的なコンサートの開催>

幅広い人脈を活かし、国内オーケストラトッププレイヤーによる演奏会を開催。また、新年の恒例イベントとして毎年1月に開催している防府音楽祭に関し、音楽監督として企画運営に取り組む。



<音楽普及活動>

自身のこれまでの演奏等の活動を通じて得た音楽の魅力について、演奏を交えたセミナーを実施。



<児童や生徒、地域活性化に向けた取組>

演奏家として、児童・生徒に向けた指導や助言、地域イベント等における音楽プロデュースや演奏を実施。(市内イベントでの音楽プロデュースや市内学校吹奏楽部向けコンサートの開催など)



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：bunka@city.hofu.yamaguchi.jp

職場電話番号：0835-25-2551

(防府市文化スポーツ観光交流部文化振興課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://tanakamasahiro.com>



ノウハウ

- 産官学を跨ぐプロジェクトの推進
- 学校現場と外部団体の橋渡し
- 業務改善

プロジェクト名	mineto教育改革プロジェクト
年齢	29歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	神奈川県小田原市
転出元	東京都渋谷区
前職	事業企画 (株式会社さとふる)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

美祢市と連携協定を結ぶ慶応義塾大学SFC研究所の長谷部准教授は私の大学時代の指導教員であり、今回の公募を知ったきっかけでした。会社員としての経験を公教育の現場で還元したいと考えていたので、非常に魅力的な募集に思えたため、応募を決めました。

○ 活動内容・取組成果

<公設塾運営>

- ・市教委と塾を繋ぐ週次会議の実施
- ・公設塾スタッフの業務改善
- ・自走化に向けた検討
- ・各中学校との連携



<大学連携事業の企画>

【出張授業】

公設塾のエッセンスを学校で行う目的で、市内中学校で大学生が授業を実施

【宿泊プログラム】

表現教育WSを3泊4日を実施



<アドベンチャーキャンプの実施>

- ・小学生を対象に、「自己決定」と「他者との協働」を学ぶ3泊4日のアドベンチャーキャンプ
- ・スタッフとして参加する、市内小学校の先生への研修デザイン



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：unoyuki.mine@gmail.com

職場電話番号：0837-52-9310

(美祢市教育委員会事務局)



## ノウハウ

- 日本における肉の薪火焼きのパイオニアで、赤身牛肉の発展に尽力し、メディア、シェフ、牛肉卸等幅広い人脈を持ち、このプロジェクト関係者間を橋渡ししながらプロジェクトを推進する
- 土佐あかうしの新たな規格制度の構築にも関わり、牛肉生産にも携わる

プロジェクト名	阿武町の名産地化プロジェクト ～特産品の無角和種の改革を通して～
年齢	54歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.7～
出身地	千葉県市川市
転出元	東京都港区
前職	シェフ (レストランテ ヴァッカロッサ)

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

ヴァッカロッサで無角和種の肉を取り扱っていたこともあり、令和2年11月より「無角和種振興アドバイザー」に就任しました。希少種である無角和種の育て方次第では、一品種の牛が同じ方向性を確立することとなり、世界的にみても非常に希少な存在になり得る可能性があります。さらに、無角和種がそういった存在になれば、社会的意義の視点において、食肉に対しての世界的な見直しがされている現在、遅れを取っている日本に対しての社会的インパクトは非常に大きく、先々の食肉事業に対して模範となる可能性や日本ブランドに対する信用を強める可能性があることから、このプロジェクトに携わりたいと考えました。

## ○ 活動内容・取組成果

- ・無角和種に関係する肉屋等へのヒアリング及び地域環境や先行事例の調査
- ・地域環境を活用することを前提とした、新たな無角和種の生産のルール作成
- ・無角和種の振興を通して、阿武町を名産地として評価してもらうためのプラン作成
- ・専門家と連携した、飼いや肉質、調理方法のテストの実施
- ・町民の無角和種に対する理解の促進
- ・町民や料理人等が阿武町を名産地として認識するための勉強会等、イベントの実施



## 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：machisui04@town.abu.lg.jp

職場電話番号：08388-2-3111

(阿武町役場まちづくり推進課)

一流シェフ 阿武町特産 "無角和牛"の改革に挑む





2021.8.21 TBS 世界ふしぎ発見!

ノウハウ

- 研究者・企業経営者・行政系シンクタンク研究員の経験を基盤とした産学官連携
- 全国の博物館等の展示物制作の経験
- SSHの対応などの経験

プロジェクト名	勝浦町の恐竜化石発掘調査関連事業と恐竜化石等の地域資源をいかしたまちづくりの推進
年齢	非公開
活動時期	R3.6～
出身地	山梨県南アルプス市
転出元	福井県勝山市
活動経験	勝山市地域おこし協力隊 (R1～R2)
前職	古生物学者

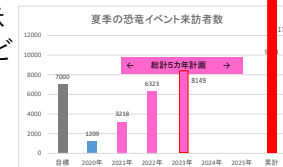
○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2020年以降、本格的な発掘調査が行われるようになった勝浦町においても、恐竜事業関連の需要が増え得ると予測しました。県との折衝機会の増大を考慮すると、地元側にも現状をよく把握して県や国に提案できる古生物学者が不可欠だろうと考えられたため、勝浦町にそれらの事業を行える人材が必要と判断し、応募しました。

○ 活動内容・取組成果

<恐竜を活用した地域振興事業の基盤づくり>  
町の総合計画に沿った恐竜事業の振興。恐竜化石の発掘だけでなく、来場数増加、展示物やグッズの制作支援、全国各地へのPRなど恐竜事業づくり全般を行う。

夏季「恐竜フェスティバル」参加人数は3カ年で累計17,690名（総計KPIは5カ年で7,000名）。



<恐竜を活用した教育インフラの整備>  
恐竜事業に関するコンテンツ制作（恐竜の骨格模型など）や幼保小中高・大学の要請に伴う恐竜関連授業（総合学習、ふるさと学習等）、町内外における生涯学習関連の企画・実施、視察受け入れ対応などを行う。



<恐竜事業の周辺に生じる課題・機会の分析、解決>

研究機関や県などの研究実施団体と町側との事業調整や研究で培ったデータ分析技術を用いた地域課題の解決、勝浦町ならびに勝浦町産恐竜の普及・PR活動取材対応やTV出演などを行う。



2023.6.23 テレビトクシマ

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：actowogino@gmail.com

職場電話番号：0885-42-2515（勝浦町教育委員会）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

[https://twitter.com/Shinkai\\_OGINO](https://twitter.com/Shinkai_OGINO)



### ノウハウ

- 商品のブランディング及び価値の創出
- 販売戦略の策定
- 組織マネジメント

プロジェクト名	IoTを活用した牡蠣養殖による東かがわ市水産業持続的発展事業
年齢	46歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.9~
出身地	兵庫県神戸市
転出元	香川県さぬき市
前職	(株) 人生は上々だ

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

東かがわ市の自助・共助・公助の取組に共感し、地域からブランドを発信していく事業にやりがいを感じました。これまで培ってきた自身の知見を活かしていきたいと考えています。市に価値を創出する一役を担っていきたいと考え、現職に至ります。

### ○ 活動内容・取組成果

#### <活動内容①>

- ・データ連携を活用した牡蠣養殖の事業推進に向けた関係者間（漁協、民間事業者等）のマネジメント
- ・環境計測IoTセンサーを用いた、水温・水質をモニタリングの開始に向けた関係者間のマネジメント



#### <活動内容②>

- ・養殖牡蠣のブランディング戦略の設計
- ・販路開拓活動と市場にむけたマーケティング戦略の設計



### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：hk-zaimu@city.higashikagawa.lg.jp

職場電話番号：0879-26-1215

(東かがわ市総務部財務課)





### ノウハウ

- 薬用作物栽培拡大に向けた圃場情報収集
- 栽培技術情報提供と栽培者組織の育成
- 需要者と生産者を結ぶパイプ作りと取引関係の醸成

プロジェクト名	薬用作物栽培推進事業
年齢	64歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	東京都
転出元	千葉県柏市
活動経験	三豊市地域おこし協力隊 (R1.6.1～R4.3.31)
前職	営業管理 ((株)ツムラ)

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

薬用作物栽培振興を目指す山下市長のもと、薬用作物専任の地域おこし協力隊として着任しました。ほぼゼロからのスタートでしたが、任期満了時には50名を超える栽培者数となり、更なる拡大と地域への定着、組合発足に向け、地域プロジェクトマネージャー着任しました。

### ○ 活動内容・取組成果

#### < 薬用作物栽培の推進 >

- ・薬用作物の産地化を目指し、販路の確立や栽培技術の共有、圃場情報の収集や必要情報の提供を実施。
- ・生産組合の設立と月次勉強会の実施及び市内圃場巡回指導（毎月実施）。
- ・令和4年度末 作付面積499 a



#### < 農業高校との連携事業 >

- ・薬用作物と地域農産物による地域活性化のための連携協定を締結。校内農場にてミシマサイコ等の試験栽培を実施。
- ・志々島の展望台前に校内で育苗した除虫菊を定期的に定植。
- ・市内農家での薬用作物協働収穫作業の実施。



#### < 需要元との関係醸成 >

- ・最終的な買い取り先である医療用漢方メーカーや有力な生薬問屋との関係醸成。
- ・生産者による工場見学とメーカーの生薬管理部門との意見交換会の実施。
- ・生薬を処方する医療機関の栽培圃場視察の受入れ。



### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：nourin@city.mitoyo.lg.jp

職場電話番号：0875-73-3040



ノウハウ

- 語学力（英語、ベトナム語、ビルマ語、ドイツ語）
- 内外（ベトナム、ミャンマー、カンボジアなど）人脈あり
- 中小企業診断士、旅行業務取扱管理者の資格保有

プロジェクト名	伊方町における地域課題解決のための重要プロジェクト
年齢	62歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.5.9～
出身地	愛媛県松山市
転出元	神奈川県川崎市
活動経験	伊方町地域おこし協力隊（R3.5～R4.4）
前職	会社員（丸紅株式会社）

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2021年5月に、観光振興を通じ関係人口を増やすことによる地域活性化を志し、地域おこし協力隊として活動を開始しました。同活動を踏まえて、少子高齢化・人口減の解消が、より差し迫った課題との認識を抱き始めていたところ、移住・定住促進をミッションとする地域プロジェクトマネージャーの募集があると勧められ、良い機会と思い応募することにしました。

○ 活動内容・取組成果

<大学等のインターンシップ制度への取組>

APUとの連携を2021年から模索。2021年2月に仮インターンシップを実施。その結果を受け、7月1日に伊方町-APU間での連携協定を締結した。今後、松山大学・聖カタリナ大や別府大学との連携もトライする。



<伊方町の魅力の発信>

写真は、海上保安庁・郷土館の学芸員と、佐田岬灯台の内部を公開することで、町の魅力を発信しようと見学したもの。（2022年11月に灯台開放の申請済み）



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ikata@town.ikata.ehime.jp



## ノウハウ

- 映像制作、ドキュメンタリー制作、訊きとりのスキル
- ジオパーク活動にかかわってきた経験
- 地域住民との関係性づくり

プロジェクト名	室戸ユネスコ世界ジオパークと連携したSDGs推進プロジェクト
年齢	30歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.1～
出身地	千葉県芝山町
転出元	高知県室戸市
活動経験	室戸市地域おこし協力隊 (H31.1.1～R3.12.31)
前職	JICA青年海外協力隊グアテマラ派遣

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

UNESCOの正式事業としてSDGs達成を事業目標に掲げる室戸ユネスコ世界ジオパークの活動に3年間従事した経験と、自身の映像制作スキルを活かせると思ったため、応募しました。

## ○ 活動内容・取組成果

## &lt; Muroto Voice &gt;

室戸市で暮らす人々が直面しているSDGsの課題と、それをいかにして乗り越えようとしているかを取材したドキュメンタリー映像シリーズを制作。

ユネスコ世界ジオパークに認定されている室戸ならではの、自然環境と人々の暮らしのつながりが伝わるような人々を取材している。SNSや地元ケーブルテレビで発信するほか、教育機関等で活用。令和5年10月時点でYouTubeに4本の映像がアップロードされ、総視聴回数は6,977回。



## &lt; SDGs取り組み事例のデータベース &gt;

室戸ユネスコ世界ジオパークと連携しながら、室戸市内のSDGsのゴールにむけて取り組む人のデータベースを作成する。

## &lt; その他SDGs推進に関わる活動 &gt;

市担当課と室戸ジオパーク推進協議会等の民間団体、地域住民との橋渡しによるSDGsの推進等。

## 【メディア等の取材連絡先】

室戸市まちづくり推進課  
0887-22-5161 / mr-011200@city.muroto.lg.jp

## 【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

Muroto Voice特設サイト : <https://www.mugp.org/muroto-voice>  
YouTube :  
<https://www.youtube.com/channel/UCjzKyJxoueaAnjljmuNCvCg>  
<https://www.youtube.com/user/murotogo>  
Twitter : [https://twitter.com/toeda\\_lion](https://twitter.com/toeda_lion)  
Instagram : <https://www.instagram.com/sumitoeda/>





ノウハウ

- デザイナーとして地域おこし協力隊任期中に起業
- 広告プロダクションにてプロデューサーとして活躍
- 地域での様々なプロジェクトに参画

プロジェクト名	土佐町情報発信プロジェクト
年齢	38歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.12～
出身地	京都府城陽市
転出元	東京都大田区
活動経験	土佐町地域おこし協力隊 (R2.4～R5.9)
前職	広告制作プロダクション

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年度から土佐町の情報発信及びデザインを担当する地域おこし協力隊として活動し、土佐町役場や町内事業所における様々なデザインを手掛けました。土佐町において新たに「情報発信プロジェクト」を立ち上げるにあたり、デザインや発信面のノウハウと、地域内のネットワークを併せ持つ人材として、地域プロジェクトマネージャーへの就任を打診していただきました。

○ 活動内容・取組成果

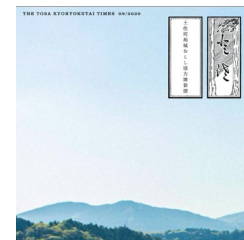
<デザイン>

・土佐町内の事業者や地域活動に対し、「デザイン」の視点で、活動の企画や広報媒体のブラッシュアップに対するサポートを実施 (写真は協力隊自体に手がけた「どこでもホンダナ」※図書館の運営支援)



<情報発信>

・土佐町内の事業者や地域活動について、町内及び町外への情報発信をサポート。(写真は協力隊時代に手がけた「地域おこし協力隊新聞」※協力隊の活動周知を目的に発行したもの)



<オープンデータ、インバウンド>

・土佐町情報発信プロジェクトに配置された地域おこし協力隊員を、地域プロジェクトマネージャーの立場でマネジメントしながら、オープンデータの推進や海外向け情報発信 (インバウンド) にも着手。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス: toast-21@town.tosa.lg.jp

職場電話番号: 0887-82-2450

(いずれも土佐町役場 企画推進課)



ノウハウ

- 地域を知っている、地域との繋がりを持っている
- 課題とアイデアを繋げるスキルを持っている

プロジェクト名	おち夢中人プロジェクト
年齢	44歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4～
出身地	高知県高知市
転出元	福岡県県太宰府市
活動経験	越知町地域おこし協力隊 (R1.4～R4.3)
前職	会社員 (日之出水道機器株)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

越知町で実施してきた人材育成事業が、「夢中人プロジェクト」として新たなステージに移行しました。そのスタートタイミングと、地域おこし協力隊の卒業タイミングが合致し、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

⑪ 教育・文化

○ 活動内容・取組成果

<まちの情報誌「おちぼん」発行>  
まちの魅力を町民の方に知ってもらい、自分たちの住むまちに関心を持ってもらうことを目的としたもの。現在第4号まで発行。町内全戸に配布中。



<かないろキャンパス>  
小学校の放課後の空き時間を使い、地域内外の専門的な知識を持つ方を招いて、様々な体験を行い、多様な世界に触れる取組。



<職業体験プログラム設計>  
中学校の職場体験プログラムについて、これまで以上に地域との連携を高め、より深い学びへと繋げるための方策を検討。次年度より展開。

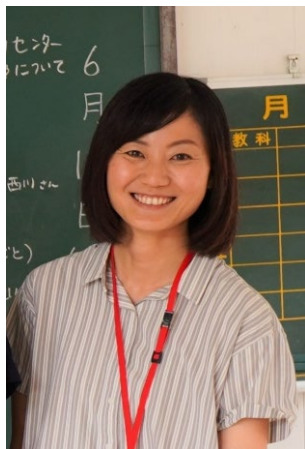
【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kikaku@town.ochi.lg.jp  
職場電話番号：0889-26-1164 (役場窓口)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

[https://note.com/ochi\\_muchujin](https://note.com/ochi_muchujin)





## ノウハウ

- 課題をデザイン思考で考えカタチにする
- 地域住民との丁寧な関係性づくり

プロジェクト名	町のDESIGN室プロジェクト
年齢	42歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.4.1～
出身地	大阪府堺市
転出元	高知県黒潮町
活動経験	黒潮町地域おこし協力隊 (R3.4.12～R4.3.31)
前職	学芸員 (NPO砂浜美術館)

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職で培った「課題をデザイン思考で考える」経験と、町のアドバイザー梅原真氏との関係性があり、町が求める「町のDESIGN室プロジェクト」に共感するとともに、自身の力を発揮できると考えたためです。地域おこし協力隊の経験や、地域内のNPO、団体、民間企業等との関係性を活かし、即戦力としての活動がイメージできました。

## ⑤ 地域コミュニティ活動

### ○ 活動内容・取組成果

#### <町のテーマ活用>

昨年度、町のアドバイザーと町民のワークショップで作成した町のテーマ「空想をカタチにする町」を広めるため、空想を自由に描くポスターの募集を企画。ポスター掲示等を機に町民の空想を聞き取り、共にカタチ化を考え伴走している（プロセスのデザイン）。また、テーマを町のデザイン戦略に活用する企業版ふるさと納税プロジェクトを作成中。



#### <地域おこし協力隊定例会>

毎月の定例会自体をデザイン。協力隊の情報交換・相談窓口としての機能に、地域との交流や体験の機会を追加するため、庁舎内会議室ではなく、自然豊かな場所、特徴的な施設等様々な“会議室”で開催（砂浜、集落活動センター、避難タワー、ゆず園など）。協力隊にも好評で、活発な意見交換や町民との繋がりが生まれ、定例会を楽しみにする隊員も多い。



#### <小さな集落活性化事業の実施>

高知県「小さな集落活性化事業」の地域コーディネーターを兼任。対象集落の住民と丁寧に対話し関係性を築きながら、地域の活性化に向けた話し合いの場の創出と具体的事業「親子を対象とした自然あそびイベント」「彼岸花を生かした新しい風景づくり」を行った。住民の発想をカタチにする中山間地域活性としてプロセスやノウハウを編集する。



### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：nishimura.yumi@town.kuroshio.lg.jp

職場電話番号：0880-43-2177



ノウハウ

- 電力事業運営
- 再エネ導入、省エネ推進
- 地域脱炭素計画立案

プロジェクト名	うきは市地域エネルギー マネジメント推進プロジェクト
年齢	52歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4～
出身地	東京都国立市
転出元	熊本県熊本市
前職	スマートエナジー熊本(株) 代表取締役

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2022年夏より、うきは市の脱炭素戦略立案・事業化検討について支援業務をさせて頂いており、業務を通じ、本事業の将来性や市役所の方々の熱意に大きな魅力を感じていました。2023年1月に地域プロジェクトマネージャーが公募され、その業務に大きなやりがいを感じるとともに、これまで培ったノウハウ等が大いに生かせるのではないかと考え応募し、採用頂きました。

○ 活動内容・取組成果

<地域エネルギー事業会社設立>  
地産の再エネ電力を含めたゼロカーボン電力供給等を担う地域エネルギー事業会社の設立について、協業する民間事業者と共に事業計画立案や設立準備を遂行。2024年2月に事業会社設立予定。



<脱炭素先行地域申請>  
環境省が自治体へ公募する「脱炭素先行地域」の第4回募集にうきは市として申請。申請書作成や選定事務局や評価委員会からのヒアリングに対応。11月7日選定を受けた。



<市有施設の再エネ・省エネ対応>  
市有施設に対し、太陽光発電設備やバイオマスボイラ設備の導入検討、ZEB化検討を民間事業者と共に実施。上記先行地域受託の場合、検討結果に基づき事業化の見込み。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：RJ301024@city.ukiha.lg.jp

職場電話番号：0943-75-4972



ノウハウ

- 運営マネジメント
- 月次報告/決算書の作成
- 村役場等への連絡調整
- その他業務

プロジェクト名	ローカル複合施設の再生&運営プロジェクト
年齢	55歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.5.1~
出身地	福岡県福岡市
転出元	福岡県朝倉市
前職	事務局長 (原鶴温泉旅館協同組合)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

観光関連や物産振興に対し、民間の立場で地域や自治体と関わって10年以上が経ち、もう少し自治体の懐に入り込んで仕事ができなければ、本当の地域活性化に役立つことは難しいということも何度も痛感してきた中で、自治体と地域おこし協力隊員のミスマッチが多々起こること、その間に入って調整する翻訳家のような立場の制度が早々にできるのではないかと予想し、そんな役についてみたいと考え行動したのがきっかけです。

○ 活動内容・取組成果

<運営マネジメント>

赤村の主要施設、源じいの森の支配人として日々の施設運営業務を実施。受付や清掃、業者調整、情報発信、会計などをスタッフが行っており、それら業務の管理及び改善が主な仕事。



<企画開発マネジメント>

新たなお客様獲得に向けての新規企画を、スタッフやキャンプライフ・コーディネーター（地域おこし協力隊3名）と共に企画・実施。また、村内外企業団体との連携や集客のための営業活動も実施。さらに、メディアへの情報発信、取材対応等も実施している。



<村役場等への連絡調整>

役場との調整はもちろん、団体の経営は理事会が担うため、理事会運営の調整や業務改善の提案、スムーズな運営ができるように調整をしている。

令和3年度には、コロナ禍においても、来場者数約14万人（前年比約3万人アップ）の集客アップに尽力した。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：genjiinomori@mb.fcom.ne.jp

電話番号：0947-62-2911

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<http://www.akamura.net> (一般財団法人 源じいの森)





ノウハウ

- NPO法人の立ち上げや運営を担っていた経験から、組織作り・マネジメントの技術が活用できる
- 首都圏出身であり、地域おこし協力隊の頃に観光産業に携わっていた経験から、観光客が地方観光に求めるもの・ことへの知見がある

プロジェクト名	自然や歴史を活用した観光資源の創造・価値向上プロジェクト
年齢	36歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.9～
出身地	神奈川県横浜市
転出元	神奈川県横浜市
活動経験	大川市地域おこし協力隊 (H29.7～R2.11)
前職	会社員 (株) 佐賀自然環境機構)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

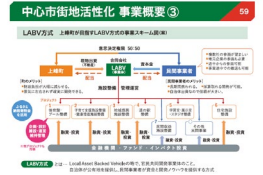
以前、福岡県大川市で地域おこし協力隊として産業観光の振興に携わらせていただき、その後は拠点を横浜に移しながらも、関東と九州を行き来しながら仕事を行っておりました。

その折に佐賀県で仕事をする機会があり、上峰町に掲載されていた公募を拝見し、地域の財産を使った観光開発に関心があったことや、かつて培った経験を活かせると思い応募いたしました。

○ 活動内容・取組成果

< 中心市街地の再開発事業 >

上峰町の中心市街地を再開発する事業について、地域プロジェクトマネージャーという立場で行政と業者間における日程や役割の分担と調整、進捗や情報の共有・整理に取り組んでいる。



< 鎮西山の整備事業 >

上峰町の観光資源である鎮西山の整備を実施するにあたり、現在は事業のプランニングやチームの作成に取り組んでいる。



< 観光プロジェクトの開発 >

地域資源を活用したプロジェクトの開発に協力させていただいており、商品やイベントの開発、地域文化や伝統の継承のできる組織作りなどに携わっている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kamimine.pm@gmail.com

職場電話番号：0952-52-2182

(上峰町役場まち・ひと・しごと創生室)

ノウハウ

- 地方創生推進交付金事業計画策定支援
- 自治体DX推進計画策定支援
- SDGs未来都市事業プロジェクトマネジメント経験



プロジェクト名	壱岐市SDGs未来都市推進事業
年齢	57歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7～
出身地	山口県長門市
転出元	東京都墨田区
前職	IT関連 (富士フィルム・ビジネスソリューションジャパン)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

壱岐市SDGs未来都市モデル事業の民間責任者として、住民や企業と行政のパイプ役として活動してきた経緯から、推進計画の内容や推進上の課題を熟知していること、さらに、全国の自治体や企業に対して官民連携の地方創生推進事業を通じて保有している広範囲なネットワークにより、本市のSDGs未来都市計画の確実な遂行と産官学民の橋渡し役として当事業に貢献できると考えたためです。

○ 活動内容・取組成果

<農業DX・スマート農業>  
 アスパラガスAI自動灌水システムの企業等との共同開発により、農作業の省力化を実現。

企業・農家・農協・県及び市の農林担当等で構成するスマート農業推進協議会により、各ステークホルダー間の連携調整を行った。

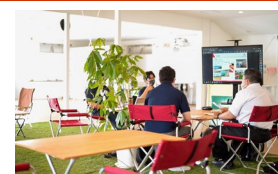
株式会社クボタ、株式会社ルートレック・ネットワークスと壱岐市エンゲージメントパートナー協定締結。



<地方創生テレワーク推進>

市営：壱岐テレワークセンター Free Will Studioを中心に、テレワーク・ワーケーションの推進、企業研修、教育旅行、大学ゼミ合宿、視察等の受入を実施。

地域課題と企業等のマッチングにより、共創機会創出の取組を行っている。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：iki-sdgs@city.iki.lg.jp

職場電話番号：0920-48-1137

(壱岐市役所総務部SDGs未来課)



ノウハウ

- 鳥獣管理士でもあり、地域課題の合意形成を多数経験
- 国内外の大学勤務経験があり、専門（公衆衛生）分野の国際誌投稿もする専門家で語学堪能
- 地域おこし協力隊時代に地域の拠点「鶴田商店」の立ち上げ、経営をしている

プロジェクト名	地域の絆再生プロジェクト
年齢	56歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.4～
出身地	東京都世田谷区
転出元	栃木県上三川町
活動経験	五島市地域おこし協力隊（H31.4～R4.3）
前職	地域おこし協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

令和2年に襲来した台風9号と10号の中で、市民が総出で自分たちの地区を復旧させようと、自主的に市道を通させようとチェーンソーを手に倒木の撤去を始めているのを見て、凄まじい人間力であると感じました。この人間力があれば、今まで見たこともないような大きな事業が興せるのではないかと実感したことから、就任を決意しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<外国人や若手住民の活動機会の創出>  
技能実習生など外国人が増加している地域において、どのような交流方法があるのかをJICA職員等とつないで企画検討した。更に、農業地域の活性化のために若手事業者の会議を興し、国土交通省の事業を利用して、RMOを検討している。



<地域の伝統文化継承技術開発>  
地域伝統文化「チャンココ」「神楽」の伝承教材を作成するために、東京大学フィールドスタディー事業を利用して、東大生や青年団、保存会や小中学校を襲いで、ワークショップを5回開催した。伝統文化教育の意義評価を試みた。



<地域の課題解決への取り組み>  
地域における声にならない不安や不満を地道に通って聞き出し、保育所移転問題や自然資源盗掘問題に対し、関係課や大学専門家、議員、環境省担当官等と住民が気軽に話し合える場をコーディネートした。住民が主体的に地域課題に取り組み、解決できる道筋を模索している。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：nozawa-t@city.goto.lg.jp  
職場電話番号：0959-76-3070

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://www.facebook.com/TamanouraAFA>  
(玉之浦町未来拠点協議会)





ノウハウ

- 広告代理店で培ってきたAD・PR・SP全般の業務
- 企画・制作におけるプロデュース
- 首都圏内教育関連におけるコンサルティング

プロジェクト名	やまえ栗を中心とした特産物の振興プロジェクト
年齢	61歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.4~R8.3
出身地	熊本県山江村
転出元	東京都大田区
活動経験	山江村地域活性化起業人 (R4.8~R5.3)
前職	広告代理店 (株式会社サンケイアイ)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

もともと実家がこの山江村にありましたが、大学から東京へ移り就そのまま出版社に就職しました。その後、フジサンケイグループに所属し、メディアから広告代理店とマスコミ関連の仕事に従事しました。定年直前にグループ内で地方創生の一環として「地域活性化起業人」の施策に取り組むこととなり、定年退職という機会にこれまで培ってきた知見を活かして、実家のある山江村に貢献したいと考えました。

④ 商品開発・販売

○ 活動内容・取組成果

<新商品開発>

被災した福岡県の東峰村と山江村の両村で共同開発した「やまえ栗を使ったバウムクーヘン」。東峰村自然菓子工房の全面協力を頂き、まずはふるさと納税の返礼品として開発。

今後も「やまえ栗」を使った商品開発は積極的に進めていく方針。



<ミシュランパティシエスイーツ教室>

ミシュランパティシエ平瀬祥子さんのスイーツ教室を開催。対象は中学3年生で、「やまえ栗」を使ったスイーツを作ることによって、その美味しさに誇りを持ってもらうことがイベントの狙い。このイベントを続けることで、栗の後継者の問題や移住定住の課題解決につなげていきたい。



<やまえ栗セールスプロモーション>

山江村にとって「やまえ栗」は、様々な課題解決につながる重要な農作物。やまえ栗販売戦略も含め、セールスシートの扱いもできる企画書の制作に従事。完成を目指し、生産・加工・流通・PRといったそれぞれの工程の課題を解決・整理している。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：yamaepromane@gmail.com

職場電話番号：0966-23-3111 (代表)

(プロジェクトマネジメント推進室)



ノウハウ

- 産地・農家への耕作技術の援助対応
- 製造工場における工程・品質管理
- 研修・採用および人材育成

プロジェクト名	農業と地域社会との連携
年齢	54歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.6～
出身地	鳥取県鳥取市
転出元	熊本県菊陽町
前職	メーカー (J T)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

農作物であるタバコを通じ、全国の産地や農家の課題に対応してきましたが、会社利益の優先もあり、解決に繋がることは多くありませんでした。重要な農業産地であるあさぎり町(人吉球磨地域)を、未来に繋がる日本農業の産地とすることの一助を担うため、町の公募に応募しました。

○ 活動内容・取組成果

- < 特定地域づくり事業協同組合 >
- ・令和5年4月に、組合員8名・派遣職員3名で設立。
  - ・令和6年4月には、組合員22名・新卒者含む派遣職員5名に拡大。
  - ・組合運営アドバイス、県内外の他地域への組合設立の働きかけを実施中。



- < 臨時雇用者の拡大 >
- ・農業に絞った地元高校生の期間限定アルバイトの調整を継続中。
  - ・全国からの季節雇用の募集として、ワーキングホリデーを企画し、令和6年度から実施予定。



- < 地域情報の発信 >
- ・地域特産品の開発や販路拡大の企画を、地域商社と連携しながら実施。
  - ・地域イベントや観光に繋がる企画を、行政および地域おこし協力隊と連携しながら展開中。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：h-kawakami@asagiri.kumamoto.jp

職場電話番号：0966-45-7211 (役場)

0966-47-0590 (あさぎり商社 (駐在))



### ノウハウ

- 農業生産法人の経営
- 未利用素材（廃棄果樹や野菜）から機能性素材を開発する事業の経験※受賞歴有
- 自治体のふるさと納税商品の開発経験

プロジェクト名	自律・自走できる「地域振興促進組織」の構築と地域活性化プロジェクト
年齢	55歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.8～
出身地	福岡県八女市
転出元	福岡県福岡市
前職	合同会社井忠※現業

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

もともと全く知らない町ではあったものの、他の事業で訪れた際に過ごしやすく感じたことに加え、一次産業（農業や水産業）を主幹産業とする苓北町なら、これまでの経験や知見が生かせるのではないかと思い苓北町プロジェクトマネージャーに応募しました。

### ③ 観光・情報発信

### ○ 活動内容・取組成果

#### <観光協会の法人化>

観光振興の旗振り役となる観光協会の法人化とその後の自走化に向けた役員ヒアリングや補助金の調査、地域の実情合った組織形態の選定などを行っている。

町では15年ほど検討されてきた事案だが、これまでの法人経営の経験を生かし早期の法人化を提言。

法人化後はP B商品の開発・販売で得た利益を町に再投資する計画でプロジェクトを進めている。

#### <ふるさと納税のブラッシュアップ>

2022年度のふるさと納税ランキング(熊本県)で43/45位であった苓北町のふるさと納税のブラッシュアップを実施。

担当部署と商品ページの見直しや体験型商品（案）の追加提言を行うなど課を横断した取組を行っている。

結果として、町が委託している事業者との相乗効果により2023年度のふるさと納税受入額が前年度比で2～3倍に増える見込みとなっている。

### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：kankou@town.reihoku.lg.jp

職場電話番号：0969-35-3332

（苓北町役場商工観光課）

# 宮崎県えびの市 地域商社プロジェクトマネージャー 辻本 千春



## ノウハウ

- 旅行会社出身で旅行商品造成のシステムを理解している
- 観光・ツーリズム、まちづくりの知識（多くのまちを視察研究）を保有
- 産官学連携で学生を活用した地域活性化の手法を熟知している
- キャリアコンサルタント資格（国家資格）を有しており、働く意義のアドバイスができる

プロジェクト名	地域商社プロジェクト
年齢	69歳（R5.4.1時点）
活動時期	R5.8～
出身地	兵庫県神戸市
転出元	兵庫県川西市
前職	大学教授（流通科学大学）

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2022年に大学教員を定年で退職しました。それまで近畿日本ツーリストで30年間、2年間の大学院研究生生活を経て、11年間ツーリズム・まちづくりの専門家として大学教員をしておりました。退職後、非常勤講師等を行っておりましたが、今までの経験を地域活性化に役立てたいと思ひ応募しました。地域商社設立に向けての採用ですが、観光関連事業も柱として含まれるため、力を発揮できると思って挑戦しています。

## ③ 観光・情報発信

### ○ 活動内容・取組成果

< 地域商社設立準備（設立は令和6年2月） >

- ・地域商社設立に向けての活動として、地域商社に関わる事例の検証や情報収集を実施。
- ・市職員のまちに対する意識調査（アンケート）を9月から3回に分けて実施して、地域商社が進むべき方向性を確認。

< ふるさと納税中間業務 >

- ・地域商社の設立に向けて、中間業務にかかわる仕事として、ふるさと納税返礼品のポータルサイト別の特徴や近隣市町の成功事例の分析を実施。

< 観光事業関連 >

- ・市内の観光地をすべて視察調査して課題・問題点を確認した。大型イベントとして宮崎市の「楠並木朝市」、川南町の「トロントロン軽トラ市」の視察およびヒアリング調査を行った。
- ・11月に市民を対象に「えびの観光大学セミナー」を実施して、観光がなぜ地域にとって大切かを説明した。
- ・2月に約200人の職員を階層別に分けて、職員研修として上記セミナーを実施する。地域商社の事業に「観光」もかかわってくるため、地域製品の消費にも大きくかかわる観光の重要性を再認識、再確認してもらうために実施する。

### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：chiharu0310.ebino@gmail.com

職場電話番号：0984-35-3713（企画課）

ノウハウ

- 営業経験を活かした企業へのアプローチ
- 地域おこし協力隊で培った住民・行政との橋渡し



プロジェクト名 中央地区未来創出事業

年齢 33歳 (R5.4.1時点)

活動時期 R4.8～

出身地 宮崎県都城市

転出元 宮崎県都城市

活動経験 日之影町地域おこし協力隊 (H31.2～R4.1)

前職 地域おこし協力隊

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

行政と住民の橋渡しや地域課題に精通していることなど、地域プロジェクトマネージャーに求められる要素を日之影町の地域おこし協力隊として3年間活動したなかで培うことができたことや、町の魅力やポテンシャルなどを最大限に引き出し、地域を盛り上げたいことから応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<旧役場跡地利活用事業>

日之影町では、移転した庁舎跡地の利活用事業を進めている。

地元住民を主体とした協議会と町の橋渡し役として、整備内容などの意見調整を実施予定。

新緑の森 止城から



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：shinkou@town.hinokage.lg.jp

職場電話番号：0982-87-3801





ノウハウ

- 官民連携
- プログラミング
- 起業創業支援

プロジェクト名	未来技術社会実装事業の推進
年齢	37歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R3.7.1～
出身地	神奈川県座間市
転出元	東京都文京区
活動経験	長島町地域おこし協力隊 (H27.10.1～H30.9.30)
前職	ITサービス (長島未来企画合同会社)

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

長島町地域おこし協力隊員として3年間活動し、また長島版総合戦略の改定に携わり、ICTを活用した長島町での取組を推進していくことに主体的に取り組みたいと考えていたため応募しました。

○ 活動内容・取組成果

基幹産業である水産業・農業のICT化やAR/VRをつかった移住定住を進めている。具体的には、養殖の課題である赤潮対策や、生簀のなかから斃死魚を回収するロボットの実証事業、ドローンを活用したスマート農業などを計画・検討している。



<重要プロジェクト>

- ・未来技術社会実装事業・協議会を発足し、関係機関との協議・現地確認・調査を実施している。
- ・令和4年度スマートアイランド推進実証調査において、ICT技術を活用した獅子島空き家対策プロジェクトを実施した。



<ブリッジ人材としての役割>

熱意ある地方創生ベンチャー連合や、ワーケーションの受け入れを実施している民間企業と連携し、事業を創出した。また、未来技術を有する企業との協業の提案などを長島町地方創生統括監として実施した。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：takashi.doi@gmail.com

職場電話番号：0996-86-1101

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

<https://twitter.com/takashidoi>



# 鹿児島県肝付町 仲西 康至



## ノウハウ

- FP（ファイナンシャル・プランナー）
- 移住プランナー
- 空き家相談士
- 実家片づけアドバイザー1級
- 職業紹介主任

プロジェクト名	肝付町移住定住促進プロジェクト
年齢	57歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.3～R7.2
出身地	奈良県奈良市
転出元	大阪府大阪市
前職	会計年度任用職員（北海道深川市）

## ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

前職において、5年間、地方創生交付金を活用し、移住促進及び空き家対策といった課題に取り組んでおりました。今回、肝付町で地域プロジェクトマネージャー制度を活用し、移住促進や空き家対策の問題に取り組む人材を募集するのを知り、これまでの経験を生かせると思い、応募に至りました。

## ① 移住・定住促進

### ○ 活動内容・取組成果

<移住サポートセンターの運営>  
ワンストップ窓口として「移住サポートセンター」を新設し、専用HPを作成し、移住相談を強化した。また、ワーケーション施設「海辺の音（ね）」を新設し、企業等の招致を開始した。  
○移住相談件数  
R3:14件、R4:268件、R5（上半期）:237件



<各種移住フェア参加・セミナー開催>  
各種移住フェアへ参加した。7月14日（大阪）、7月20日（東京）では都市圏企業とのワーケーションマッチングイベントに参加した。また、7月22日（大阪）の移住フェアでは肝付町単独セミナーを実施した。  
○R5移住フェア等参加数  
リアルイベント7回、オンライン2回



<空き家バンクの運営>  
「移住希望者と空き家のマッチング事業」を開始し、専用HPや全国版雑誌等による情報発信を実施した。  
○空き家の新規情報収集数  
R3:4件、R4:60件、R5（上半期）:45件  
○マッチング成約件数  
R3:8件、R4:27件、R5（上半期）:21件



### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：ijuu-support@town.kimotsuki.lg.jp  
職場電話番号：0994-65-8426



きもつき移住サポートセンター（役場企画調整課内）

### 【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】

HP：https://kimotsuki-town.jp/ijuu



ノウハウ

- 小型船舶1級
- 食品衛生責任者
- 海上・陸上無線技士2級
- 特殊無線技士(レーダー)
- 潜水士

プロジェクト名	漁民町民win-winプロジェクト
年齢	65歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R5.1～
出身地	鹿児島県天城町
転出元	千葉県館山市
活動経験	天城町地域おこし協力隊 (H30.4～R3.3)
前職	国立東京水産大学文部科学技官

○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

地域おこし協力隊として3年間従事したのち、R5年度に水産業振興拠点施設がオープンするため、地域プロジェクトマネージャーに応募しました。

○ 活動内容・取組成果

水産業振興拠点施設「うおっちょ」のマネージャーとして、メニューや新商品の開発に取り組んでいる。

横浜八景島シーパラダイスに天城町展示スペースがあり、生物の輸送に奮闘中。

新たに仙台うみの杜水族館に天城町のコーナーを作る予定で、現在協議中。

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：mm571028@gmail.com

職場電話番号：0997-85-6200

(水産業振興拠点施設 うおっちょ)

ノウハウ

- プロジェクトの企画立案、プロセス設計
- ワークショップやイベント等の設計・ファシリテーション
- 関係者間の合意形成に向けたロジックや論点整理



プロジェクト名	宮古島市における地域内経済循環づくりに向けた推進基盤づくり
年齢	34歳 (R5.4.1時点)
活動時期	R4.7~
出身地	沖縄県宮古島市
転出元	東京都品川区
前職	フリーランス

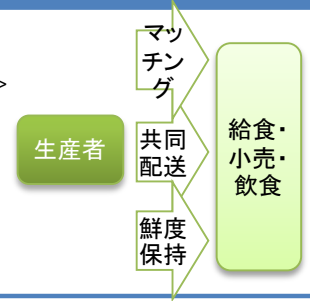
○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

2020・2021年度に宮古島市の地域循環共生圏事業に外部アドバイザーとして携わり、2021年度には産業振興局の基礎調査事業に携わりました。地域プロジェクトマネージャーが推進する地域内経済循環システムづくりの取組に対して、これまでに培ってきた地域の食や教育関連のプロジェクトの経験を大いに生かすことができると思い、応募しました。

⑤ 地域コミュニティ活動

○ 活動内容・取組成果

<地産地消コーディネート機能の構築>  
農水産物の生産と消費をつなぐコーディネート機能の構築や、新たな域内サプライチェーンづくりに向けた調査や関係者調整等を実施している。



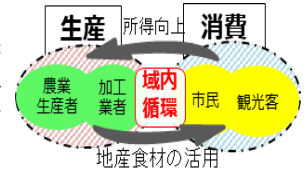
<地産地消の気運醸成>  
地産地消を推進する市民コミュニティの運営をマネジメントするとともに、イベントの企画や広報戦略などについて、専門家や関係者との検討を行っている。



イベントポスター

<地域経済分析の仕組みづくり>

地域経済の実態や地産地消による効果を把握し、地産地消の取組の継続性を担保する仕組みづくりに向けて、分析手法の検討や人材育成に取り組んでいる。



【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：x2833.dai@city.miyakojima.lg.jp

職場電話番号：0980-73-1919

(宮古島市産業振興局直通)



### ノウハウ

○農業生産法人の会社経営に携わり、ふるさと納税のサイトで県及び作物別でそれぞれ人気ランキング1位を獲得

プロジェクト名	地産地消推進及び農産物販売拡大プロジェクト
年齢	49歳（R5.4.1時点）
活動時期	R4.9～
出身地	大阪府吹田市
転出元	大阪府吹田市
前職	農業（株式会社万陽商事）

### ○ 地域プロジェクトマネージャーになった経緯

農家所得を向上させ、農家ではなく農業という産業に進化させることで、若い世代が農業をするために国頭村に来てくれる環境を作りたいと思いました。稼げる農業への取組の推進に携わりたと思ったことが、地域プロジェクトマネージャーになった理由です。

### ○ 活動内容・取組成果

<地産地消の推進>  
地産地消推進協議会で朝市を開催している。

<農家販路開拓>  
サンプルを東京等のマルシェや飲食店などに送り、まずは国頭村の農産物を知ってもらうことに取り組んでいる。その上でマーケットが望む物ができるかを検討している（ダイレクトアウト→マーケットインへ）。

<やんばる3村連携によるブランディング及び販売強化>  
やんばる3村（国頭村、大宜味村、東村）との連携により、やんばるの農産物のブランディング化を行っている。また、世界自然遺産の「きせきの森」をアピールしている。

### 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス：okada@vill.kunigami.okinawa.jp

職場電話番号：0980-41-2122

（国頭村役場農林水産課）